2015年11月5日
復刊27号

旭丘学報 クローバー

題字：秋山公樹先生（本校書道教諭）

日中高校生・生徒交流

特集 PTSとナガサキ修学旅行
ーグローバル・キャリア教育の展開ー

contents

P2-13. 特集 PTSとナガサキ修学旅行ーグローバル・キャリア教育の展開ー　P14-17. 日中友好　西安外国語大学附属外国語学校との交流　P18. 全学協議会、全学教育研究集会　P19. 公開まちづくりシンポジウム、学園創立110周年記念「資料集」編纂学習会と関連資料の整備について　P20-21. 学校日誌、生徒会よりクラブ紹介　弓道部　P22-23. 生徒の活躍　P24. 学校づくりを支える人々㉔　P25. 同窓会だより、PTAだより、父母懇だより　P26. お元気ですか？、学債・寄付金運動について―お礼とお願い　P27. 2016年度（平成28年度）生徒募集　P28. 小田原特集　小田原干支にちなんだもの、編集後記

PTSとナガサキ修学旅行
ーグローバル・キャリア教育の展開ー

毎年10月、旭丘高校２年生が体験する「ナガサキ修学旅行」。この修学旅行に向けて生徒たちは、４月の段階から事前学習で原爆や戦争の問題への洞察を深めていきます。そして、ナガサキでの被爆者の証言や原爆遺跡の見学などから、被爆や戦争を自分たち自身の問題としてとらえ、自分の生き方や進路を見つめなおします。ここに、キャリア教育としての修学旅行の意味があります。

今年も２年生は、数多くの思いを胸に被爆の地を旅してきて、修学旅行直後のPTS懇談会でナガサキへの思いを「構成詩」として発表しました。

旭丘高校独自の教育システム「PTS」

旭丘高校では、毎年10月中旬にPTS懇談会が開催されます。「P」はペアレンツ（parents）つまり父母・保護者、「T」はティーチャー（teacher）つまり教師、「S」はスチューデント（student）つまり生徒の頭文字です。

この三者による懇談会は、本校の学校づくり実践の中から生まれ育ったユニークなもので、生徒のホームルーム活動を通した意見表明や高校生活の具体的な姿に触れ合い、彼ら・彼女らの発達課題を見出し、担任・保護者で共有し、さらなる子育ての共同をつくり出していこうとするものです。

このような懇談会が生まれ、発展して来た土台には、保護者の皆さんと教職員、そして全学と地域の共同の力で長年にわたって取り組んで来た私学助成運動・公費助成運動があります。

近年では、生徒〔旭丘高校生徒会〕も全国の私立高校の生徒たちと手をつないでこの運動に主体的に参加し、それを通して学びを深め自治を発展させています。この運動は、“子どもは社会の宝なのだから、みんなでお金（つまり税金）の使い方を考え、力を出し合って子どもたちを共同して育てよう”という無償教育の理念に支えられています。

この運動に参加することを通して、保護者のみなさんが子どもへの見方を、「私の子ども」という個人的な視点から、「私たちの子どもたち」という集団的・社会的な視野に広げて来たことが、旭丘の学校づくりを豊かにしています。

各学年は、その教師集団の中に方針・実施・総括に関する担当ブロックを起いて取り組みます。今年のPTS懇談会に対するある学年の方針は、次のようになっています。

❶旭丘高校の教育目標、全学年統一方針、学年方針にもとづいた、HR担任としての指導方針とHR懇談会以降の指導経過、生徒たちの成長を父母に示し、父母の共同を深める場とする。
❷PTS懇談会の取り組みを通して、父母（保護者）との協力・共同の場を広げ、父母提携を質的に発展させる。
❸学年の指導課題と実践（社会見学の取り組みなど）を明確に父母に示し、HR担任の指導方針と個々のクラスの状況を父母に明らかにし、父母提携の前進を図る。
❹私学助成署名運動の取り組みについて、父母への理解と共同を求め、その呼びかけと取り組みの前進を図る。
❺HRごとの懇談会においては、父母・教師・生徒が参加するなかで取り組みを進め、生徒の発表や討論参加など、HR担任は日常のHR指導と関わらせて、取り組みを進める。
❻父母参加率を学年目標として70%として、その達成に向けて学年全体で取り組む。

今年10月10日（土）に開催されたPTS懇談会は、１学年と３学年が午前中、２学年が午後に設定され、それぞれ、体育館やホールで開催される学年「全体会」と、その後各教室で行われるホームルームごとの懇談会が行われました。

例えば、ある学年の「全体会」は、

次のように構成されています。
※司会：普通科・総合学科の学年委員各１名

❶開会のことば：司会生徒（2分）
❷学園の近況報告：学校長（10分）
❸学年の現状と指導課題：神山学年主任・平田総合学科責任者（各7分）
❹生徒代表による発表：各クラス2分×12クラス（24分）
❺PTA：学年委員会代表挨拶（3分）
❻私学助成署名についての呼びかけ：PTA私学助成委員会（3分）
❼閉会の言葉・移動指示　司会生徒（2分）
（全体予定58分）

旭丘高校では、自我に目覚め、自らの個性を確立するとともに社会や政治と向き合い進路・職業選択を実現していくという青年期教育の課題に応えるため、それぞれの学年に自治と学びの活動に関わるテーマを設定してホームルームと学年の活動を展開しています。

各学年のPTS懇談会では、それぞれの学年ごとのテーマにそって生徒や教員からの報告と懇談がなされます。

具体的には、１年次には「交わりと自治」をテーマとし、ホームルームの中に居場所をつくり、仲間と交わる力、集団を自分たちの力で治める力の基礎をつくります。それを土台に、２年次には、「平和と人権」をテーマとして、ナガサキ修学旅行を節目とした年間カリキュラムによる学習と自治に取り組みます。ここでは、人類が歴史的に獲得して来た普遍的な価値を指針として自らと社会の進路を結んでとらえていく力を培います。そして３年次には、こうした世界や社会の「大きな進路」をとらえる力の形成を土台にして、それぞれの進学先や就職先等の「小さな進路」を具体化する「進路と生き方」をテーマとした取り組みがなされます。

そして、こうした学年ごとのテーマにそった３年間の学びと自治の活動は、本校独自の進路・キャリア教育のカリキュラムにもなっています。

今回の学報では、こうした各学年の取り組みの中から、「平和と人権」をテーマとした戦後70年・被爆70年のナガサキ修学旅行にかかわる２年生の実践に焦点を当てて紹介して行きます。

ナガサキ修学旅行スケジュール

<table>
<tr><td>1日目</td><td colspan="2">集合場所：羽田空港第二ターミナルビル　5番窓口
11：10発　ANA663便　17：00
羽田空港ーーーーーー長崎空港ーーーーー長崎原爆資料館（被爆体験講話・見学）ーーー長崎市内
（機内自弁）13：00頃着　14：30　講話：大ホール使用　17：30頃</td></tr>
<tr><td></td><td>平和学習</td><td>①ナガサキで被爆体験講話を聞く　14時00分～15時00分　講師：下平作江さん
②原爆資料館の見学と調査　15時00分～16時00分</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2日目</td><td colspan="2">テーマ：旭丘高校オリジナル平和学習　12：00　13：00
ホテルーーー碑めぐり・ゼミ（平和公園～爆心地公園～平和集会）……和泉屋（昼食）ーーー
9：00
14：30
ーーー平和学習を総括する集い（長崎総合福祉センター）ーーーーホテル
13：30　17：15</td></tr>
<tr><td>平和学習</td><td>①原爆遺跡・碑めぐり・ゼミ　9時00分～11時30分
（各班ごとに分散し現地講師の案内で学習、終了後コースごとに記念撮影）
②平和集会　11時40分～12時
「爆心地公園（平和宣言）」
合唱，黙禱、折り鶴奉納、平和宣言
③平和学習を総括する集い　13時30分～14時30分
50字メッセージ作成・碑めぐり・ゼミ報告および平和学習総括</td></tr>
<tr><td>3日目</td><td colspan="2">長崎市内自主行動</td></tr>
<tr><td>4日目</td><td colspan="2">ハウステンボス見学</td></tr>
</table>

2学年　春から秋までをかけた ナガサキ平和学習事前学習カリキュラム

長崎修学旅行に向けて、2年生では4月から陶冶（平和学習）と訓育（自治）の両面からなる事前の取り組みが行われます。

今年度は、4月に修学旅行にかかわる学年の指導機関である旅行委員会が選出され、5月から6月にかけて「千羽鶴」「人間を返せ」「赤い背中」等のＶＴＲを用いた学年全体での学習が重ねられました。さらに、7月と9月には、社会科の教師による「原爆はなぜ落とされたのか」についての社会科学的認識をつくる授業と理科の教師による「核」についての科学的認識をつくる授業が学年の生徒全員を対象として行われました。

5月下旬には旅行委員会から、修学旅行までにナガサキに落とされた原爆で亡くなった方の数と同じ7万4千羽の折り鶴を平和への祈りを込めて折ろうという「折り鶴」運動が提起され、各クラスでホームルームづくりと結んだ活動が展開されました。

6月中旬には旅行委員会からナガサキで歌う合唱曲（平和の歌）が提起され、練習が始まりました。

近年始まった2学年の学年委員・旅行委員が3学年の学年委員・旅行委員から修学旅行の経験と取り組みについて学ぶ学習会も7月上旬に開催されました。

8月21日の登校日には、全校生徒が参加する「平和の集い」で2学年旅行委員会が作った「平和宣言」が発表され採択されます。そして、夏休み明けからは、折り鶴を集約して糸を通して束ね、碑めぐりのコースやゼミごとの事前学習、現地での班別自主行動の計画作成等の取り組みが進められて来ました。

ナガサキ修学旅行への抱負

普通科2年
学年委員長　黒澤優季乃さん

この修学旅行を通して、私たちはたくさんのことを学んでいきたいと思います。その中心は、世界で唯一の被爆国の国民として、原爆の実態を被爆者の方々から直接お話をお聞きし、被爆地を実際に歩く事を通して、被爆者の方々の思いを次の世代に伝える学びである平和学習です。二つ目は集団行動を通し、組織活動を学び、自分たちで規律を守るなかで自治の力を身につける事ができるようになることです。

私は碑めぐりで、朝鮮人犠牲者の碑のコースを巡ります。原爆投下されたとき日本人だけでなく、朝鮮人や中国人の方々が犠牲になられていることを事前学習で知りました。その方々がどのような扱いをされていたのか、現地でしっかりと学習していきたいです。

また、今私たちができることを、平和学習を通して考えていくなかで、修学旅行にのぞみたいと思います。

「まちづくりシンポジウム」で ナガサキ修学旅行と平和への思いを発表

９月18日に開催された第25回公開まちづくりシンポジウムにおいて、生徒会総務は全国高校生戦後70年プロジェクトに参加してきた感想を発表。修学旅行に旅立つ２年生へ託す思いを、次のように発表しました。

私たちはこの１年間、「戦後70年」をキーワードの一つとして活動を繰り広げてきました。21日の登校日に行われた平和集会では、２年生の旅行委員会が中心となって作成された平和宣言を紹介するなかで、全校でこの平和宣言を確認することとしました。そして、戦争で命を落とされたすべての人に哀悼の意味を込めて、１分間の黙禱をしました。そして、全校で平和を願いながら折り鶴を折って、２年生にその思いを託しました。

約10日後に２年生は、被爆地ナガサキ平和学習を基調とした修学旅行に出発します。これまでの事前学習での学びを踏まえて、その学びや思いなどについて、２学年委員会の皆さんからお願いします。

２学年総合学科学年委員長
鈴木あんなさん

私たちは、修学旅行にかかわる服装などの決まりについての私たちの要求を学校に認めてもらうための要求運動に取り組み、「学年に責任を持つ」ということの意味、「学年全体の成功」という視点、「自分たちの集団の持つプラスの力」ということについて学びました。さらに取り組みを続け、修学旅行を自分たちの手で成功させ、学年として成長していきたいです。

私たちは、被爆者の方の生の声を聞くことのできる最後の世代だと言われています。だからこそ学べることがたくさんあると思うし、聞くだけではなく、次の世代、また次の世代に戦争の悲惨さを伝えたいと思います。そして、学んで来たことは、しっかり総括して修学旅行後にある10月10日のＰＴＳで伝えていきたいと思います。

高校生・戦後70年「未来」プロジェクト

全国自転車ピースリレー旭丘高校歓迎集会

－戦争体験と平和の灯を受け継ぎ伝えていく決意を確かめ合う－

８月26日、平和と東日本大震災復興への思いを乗せた「高校生自転車ピースリレー」東海道ルート（東京～名古屋）の７台の自転車が、旭丘高校に到着。歓迎集会が開催されました。

集会では、旭丘高校吹奏楽部が「ピース・ハイライト」を演奏し歓迎の気持ちを表明。水野学校長の歓迎の挨拶の後、高校生・戦後70年「未来」プロジェクト神奈川実行委員会委員長の長谷川私教連委員長が挨拶。「この集会を準備してくれた旭丘高校の学校長をはじめとする教職員・生徒・保護者の皆さんに感謝します。いま日本の平和が問われている時に神奈川の地でこうした集会が出来たことを意義深く感じます。希望の灯を私たちと多くの人たちに灯していく決意をもって挨拶とします。」

北野絵里花生徒会長は、旭丘高校生徒会が全校生徒自治集団づくりやナガサキ修学旅行平和学習に取り組み８月21日には全校で平和集会を行ったことを紹介。「このような企画に参加できて嬉しい。ここでも学びを深め、受け取った灯は全校の生徒につないで行きたい。」「私たちは直接被爆体験を聞ける最後の世代になります。私たちの手で平和の思いをつなぎ、平和な未来をつくっていきたい。」と決意表明しました。

自転車に乗ってピースリレーをつないできたプロジェクト副実行委員長の坂口さんは、吹奏楽部の「ピース・ハイライト」の演奏での歓迎に心を打たれたと歓迎集会を準備してもらったことに感謝の気持ちを述べ、「私たちが運んできた灯は、宮城県石巻市で2011年の東日本大震災でたくさんの瓦礫を燃やしたときに出た火を復興を願って受け継いだものと、核兵器がこの地上から無くなるまで燃やし続けたいと全国から集まった広島の平和を願う火が合わさったものです。」と紹介。「東北ルート・広島ルート・東海道ルートとリレーをつづけて戦争の悲惨さを知り、一時は自分は無力で平和をつくる力などないのではないかと思ったが、被爆者の方々をはじめたくさんの人たちと出会い、たくさんの人たちに支えられて自転車リレーが出来てきたなかで、たくさんの人たちと手をつないで行動することで平和をつくっていけると思うようになった。」と語り、「平和な未来を願って自転車をこぎつづけて行きたい。」と決意表明しました。

ナガサキ平和学習の事前学習を積み重ねてきた２学年生徒たちは、修学旅行直後の10月10日、PTSにおいて、構成詩を発表しました。

合唱構成詩
「未来をつくる私たち」

これから、2015年度２学年合唱構成詩「未来をつくる私たち」を始めます。

（一礼）

私たちは三泊四日のナガサキ平和学習をテーマにした修学旅行に行きました。

長崎に原爆投下がされてから、今年で70回目の夏が来ました。一発の原爆によって街が地獄と化し、今なお多くの人々が苦しんでいることを思うと、深い悲しみ、恐怖、怒りを感じます。

今年の８月６日、松井広島市長は平和宣言で、世界に呼びかけました。「人間は、国籍や民族、宗教、言語などの違いを乗り越え、同じ地球に暮らし一度きりの人生を懸命に生きるのです。私たちは『共に生きる』ために、『非人道性の極み』、『絶対悪』である核兵器の廃絶を目指さなければなりません。そのための行動を始めるのは今です。」

続く８月９日、長崎での平和宣言で田上長崎市長は私たちへ向けて呼びかけました。

「若い世代の皆さん、過去の話だと切り捨てずに、未来のあなたの身に起こるかもしれない話だからこそ伝えようとする、平和への思いをしっかりと受け止めてください。『私だったらどうするだろう』と想像してみてください。そして、『平和のために、私にできることは何だろう』と考えてみてください。若い世代の皆さんは、国境を越えて新しい関係を築いていく力を持っています。」

私たちが未来をつくる。そのためにはまず世の中のことを知らなくてはなりません。私たちの暮らす社会は今どうなっているでしょうか。

（２拍おいて）

まいにち、満員電車に乗って、人を人とも、思わなくなった

インターネットの、掲示板のカキコミで、心を心とも、思わなくなった

虐待死や、自殺のひんぱつに、命を命と、思わなくなった

じゅんびはばっちりだ

戦争を戦争と思わなくなるために、いよいよ、明日戦争がはじまる

（幕が開く）（明転）

この詩はインターネット上で話題になったものです。

いま、私たちは平和な世の中を築けているでしょうか。日々の慌ただしさに周囲に無関心になっていないでしょうか。

今の日本は平和な毎日だと思う。戦争もないし。

そうかな？　今も世界のどこかで戦争が起きているよ。平和ってなんだろう。戦争のことを聞いてもイメージがわかないな、というのが現実だと思います。

そんな中で私たちは２学年として平和について学び始めました。

修学旅行の行き先は

（２拍おく）
（全員）ナガサキ

原爆遺構めぐり（碑めぐり）・ゼミナール

■原爆遺構めぐり（碑めぐり）…案内者と長崎の街を歩き、被爆の追体験をする
■ゼミナール…長崎原爆を科学的・社会的に考える

1	城山小学校コース	平和公園→城山小学校（嘉代子桜・少年平和像・被爆山椒の木・平和祈念館）→爆心地公園
2	山里小学校コース	平和公園→浦上天主堂→如己堂→山里小学校（あのこらの碑・旧防空壕跡）→爆心地公園
3	山王神社コース	平和公園→被爆鳥居→山王神社→浦上天主堂→爆心地公園
4	朝鮮人犠牲者の碑コース	平和公園→朝鮮人・中国人犠牲者の碑→浦上天主堂→如己堂→爆心地公園
5	傾いた門柱（旧長崎医科大学）コース	平和公園→旧長崎医科大学の傾いた門柱→浦上天主堂→如己堂→爆心地公園
6	長崎電鉄の碑コース	平和公園→長崎電鉄犠牲者の碑→浦上天主堂→如己堂→爆心地公園
7	被爆地・白山墓地コース	平和公園→浦上天主堂→如己堂→山里小学校→白山墓地→爆心地公園
8	松尾あつゆき句碑コース	平和公園→浦上天主堂→如己堂→山里小学校→白山墓地→爆心地公園
9	林京子の道を歩こう	平和公園→長崎大学裏門・大学構内（旧長崎兵器工場）→三菱重工慰霊碑→文教公園（聖フランシスコ病院）→浦上天主堂→爆心地公園
10	谷口ゼミ	「長崎の郵便配達」の谷口さん自身によるお話。
11	松尾ゼミ	８月９日以降70年間被爆者として生きてこられたお話。
12	高校生平和大使ゼミ	

今から70年前の８月９日11時02分、世界で２つ目の原子爆弾がナガサキに投下されました。

70年？　それなら被爆者の方がその時に私たちと同じ年齢だったら、今は86歳。体も辛いのではないでしょうか。

被爆者の高齢化が進む中、戦争体験を語ることができる人は年々減り続けています。今、被爆者の平均年齢は80歳を越えました。

私たちには、この体験を受け継ぎ伝える責任があります。

１発の爆弾は一瞬のうちに長崎に住む人たち、７万４千人の命を奪った。

（全員）７万４千人の、命。

私たちは原爆のおそろしい事実を知りました。私たちは、長崎に出発する前に２学年として平和について学ぶために何かできないか考え、行動に移しました。

長崎での原爆犠牲者は７万４千人。この一人一人の命の重みを知り、犠牲者の命を慰めるにはどうすればいいでしょうか。

私たちは、学年全体で長崎の原爆の犠牲者の数の鶴を折ることにしました。

爆心地公園の慰霊碑の前で私たちは平和集会を行い、７万４千人の犠牲者へ向けて、７万４千羽の鶴を奉納しました。鶴は色とりどりで目を引きました。

多数の鶴を目の前にして、改めて大勢の犠牲を実感しました。

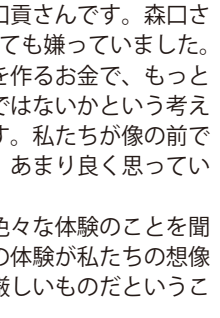
原爆で被害にあったのは子どもたちでした。男たちは戦地へ行き、本土には女・子どもが残っていたからです。大人が担っていた仕事も今では子どもの手によって支えられていました。

原爆はその場にいた人を吹き飛ばしました。そしてその影響はその場かぎりではなく未来さえもむしばんでいったのです。

ああ、遠くから聞こえてきます。うめき声が…。

水ヲ下サイ
アア　水ヲ下サイ
ノマシテ下サイ
死ンダホウガ　マシデ
死ンダホウガ
アア
タスケテ　タスケテ
水ヲ
水ヲ
ドウカ
ドナタカ

（全員）オーオーオーオー
　　オーオーオーオー



生徒の感想

❖城山小学校コース
２年２組　宝蔵寺友海さん

城山小学校を案内してくれた羽田さんの話を聞いて、平和に近づく約束は本当に素敵なことだと思った。羽田さんが仰っている３つの約束（下記※）を守ること、それに少しでも近づけるように努力したいと思いました。

被爆者の羽田さんも、心・身体に大きな傷を負っているのに、平和の大切さや過去を知り未来につなげるということを伝えているのだから、自分も少しでも平和に近づけるようがんばりたいです。

※３つの約束：①命を粗末にしない②差別しない③話し合いで解決する。

❖傾いた門柱コース
２年１組　加藤我拡くん

傾いた門柱コースの担当の末永さんの話で印象に残ったことは、平和公園の地面が火をイメージしているということで、驚きました。もう一つ印象に残ったのは、旧長崎医科大学にあった傾いた門柱で、これを見て、原爆の恐ろしさや爆風の恐ろしさを肌で感じました。

❖朝鮮人被爆者の碑コース
２年３組　登坂拓実くん

担当は森口正彦さんでした。僕は森口さんの話を聞き、日本人は罪深いと思いました。日本人も原爆の被害を受けた犠牲者だけど、一方で、何もしていない朝鮮人や中国人に対して強制的に連行して働かせたり、将来日本の敵になるからといって、罪のない子どもを殺したりしています。

原爆による被害の問題とともに、加害の問題も考えなければならないと思いました。

❖松尾あつゆき句碑コース
２年５組　春日舟さん

私たちは、松尾あつゆき句碑コースに行きました。担当は森口貢さんです。森口さんは、平和祈念像をとても嫌っていました。何故ならば、その像を作るお金で、もっと多くの人が救えたのではないかという考えを持っていたからです。私たちが像の前で記念写真を撮るのも、あまり良く思っていないそうです。

この話と、他にも色々な体験のことを聞いて、被爆者の方々の体験が私たちの想像を絶する暗い悲惨で厳しいものだということを強く感じました。

谷口稜曄ゼミ

《場面転換》

平和学習で学んだ70年前のナガサキの姿は、灰色の死の町でした。しかし、私たちが修学旅行で降り立った長崎の町は緑豊かな坂の街でした。

修学旅行１日目、羽田空港から旅の始まりです。

みんなで飛行機に乗るのは初めて。揺れる飛行機に一喜一憂しました。長崎はさわやかな日差しで迎えてくれました。市内に到着後、原爆資料館を訪問しました。ここで私たちは改めて原爆の威力のすさまじさと悲惨さを学びました。

私たちは資料館のホールで被爆者の下平作江さんの話を聞きました。

下平さんは10歳で被爆、家族を失いました。助かった兄も原爆の十一日後に急性原爆症で死んでしまいます。その後、支え合って暮らした妹も生きる辛さに、自ら死を選びました。

こんなことになるなんて、幼い下平さんが想像できたでしょうか。あの日突然に下平さんの未来が、ずたずたに切り裂かれたのです。

家族の突然の死、生き残った家族さえもどんどん倒れていきました。

このような悲惨な体験を、言葉にするのは並大抵のことではないのです。

被爆者が語ってくれるのはあたりまえのことではないのです。

下平さんは前日まで入院していたのに私たちのために退院してくださいました。私たちにできることは、さらに原爆や被爆体験を調べて、子どもや周囲の人に戦争のことを広めることだと思いました。

下平さんの体験と重なる一曲を全員で歌います。聞いてください。「折り鶴」

（全員で折り鶴を合唱を１番のみ「ヒロシマ」の歌詞を「ナガサキ」に変えて歌う）

私たちは下平さんの話を胸に、２日目の平和学習に備えました。

二日目、暑い日差しの中、長崎の町を被爆者の方に案内していただきました。原爆がどれほど大きな範囲にさくれつしたかよくわかりました。

被爆者の方は、わかりやすくパネルをつかって街を案内してくださり、私たちに原爆の恐ろしさを伝えてくれました。

さらに、被爆者の平野さんのゼミナールの参加者は「高校生平和大使」の取り組みを学びました。日本中から集まった高校生たちが世界に戦争や核兵器を無くそうということを訴えるために１万人の署名をあつめて国連に提出しました。この運動が、世界の核兵器を７万本から１万本に減らしたのです。平和を願う気持ちが行動につながったことを知り感動しました。

生徒の感想

❖碑めぐり・「傾いた門柱」の感想
２年Ａ組　菊池純也くん

このコースでは原爆の悲惨さや威力の話を聞いたり、実際に傾いた門柱を見たり原爆でなくなってしまった像の威力を見たりしました。実際に自分で見たことで具体的にどんなことがあったのか、少し想像がつきました。また戦争が始まってしまった際、日本人が労働力として中国人を連行してきました。その中国人の方も原爆によって命を亡くしてしまったそうです。

私が知らなかったこと、見たことがなかったことを体験できとても良かったです。

❖碑めぐり・「ナガサキ電鉄の碑」の感想
２年Ａ組　藤本祐介くん

僕が回ったコースは長崎電鉄のコースで、このコースを巡ってみて改めて気づかされたことは、核が落ちたのだから当たり前かもしれませんが、本当に多くの命が奪われてしまったということです。担当者の方から上空から撮られた長崎の街の写真を見て、原爆を落とされる前の街の様子と、後の様子の写真を見させてもらったのですが、前の写真の方は建物とかしっかり見えて街の様子が観れたんですけど、後の写真はちょっとうまく言葉に表せませんが、後の写真には本当に何にもなくて、この建物、街にいた人々がみんな死んでしまったんだなと思うと、すごく悲しくなりました。

そして、原爆の被害を受けた方の死体の様子も詳しく聞きました。路面電車の手すりにつかまったまま焼かれて亡くなった方、学校で机に向かったままの体勢で亡くなった方がいたそうです。自分が死ぬことがわかってないままに亡くなってしまった方もいるかもいるかもしれません。

こんなひどいことをなくすためには僕らの若い世代が頑張るしかないんじゃないかなと思いました。

❖谷口ゼミの感想
２ＵＣ　中山敏秀くん

谷口さんの世代の方の話がどんどん聞けなくなっていく中で、戦争のことを詳しく話してくださいました。自分たちがしっかり受け継いでいこうと思いました。

（城戸さんの碑めぐり感想）

未来の平和は君たちにかかっているよ。そう被爆者の皆さんから背中を押されたように感じます。私たちは平和について自分の考えたことを書いて残すことにしました。私たちの仲間が作った50字メッセージを３つ紹介します。

「戦争、それは三つある世界の異変の一つです。希望の未来を絶望で塗り潰してしまう。未来は我々の思い次第。」

（２年ＵＤ組：濱田臣吾くん）

「過去の事だからではなく“二度と繰り返してはいけない”という言葉を忘れず次の世代へ伝えていこう。」

（２年４組：城戸優歌さん）

「戦争をして人の命を奪って手に入れたものなんて何もならない。むしろ失うものの方が多いだけだ」

（２年ＵＦ組：吉沢南海さん）

平和学習のまとめを終え、三日目は、班別自主行動。長崎市内を班ごとにめぐりました。初めて路面電車に乗りドキドキしました。お土産も、長崎ならではの名産がいっぱい！ちゃんぽん、カステラ、迷ってしまいました。

四日目はハウステンボスに行きました。あふれる緑、オランダをイメージしたにぎやかな街並みに胸が弾みました。

さよなら九州。思い出をありがとう。人々の笑顔があふれている現在のナガサキ、私たちがこれから先どんな苦難にあっても、ナガサキの復興を胸に頑張ります。

被爆者の想像を絶する痛みをこれからの未来で二度と起こさせないためにも、私たちは学び続けなくてはなりません。修学旅行で学んだことを忘れずに、自分たちの道を切り開いていきます。

私たちは学びました。修学旅行で多くの人と生活を共にして、世界平和を目指すには、まずは自分の周囲の平和だということを。

そう、大きな平和は、小さい平和から。そのためにも、日々の学校生活を大切にしなくてはなりません。人は一人では生きていけません。平和とはひとの痛みを知ることです。

平和の願いをこめて。「アンジェラスの鐘」きいてください。

（全員でアンジェラスの鐘１・２番合唱）

❖松尾幸子ゼミ
２年４組　城戸優歌さん

写真をいくつか見せてもらいながら、被爆体験を聞かせてもらいました。

松尾さんは、大家族だったそうです。当時まだ小学５年生の時の事でした。学校では飛行機が来た時、爆風で目や耳がダメにならないよう、ふさぐ練習をしていたそうです。今の避難訓練とは、ほど遠いことです。何が何だか分からなかったそうです。ぼうぜんとしていたんだそうです。

たった１日で、ほとんど人の命や建物などが消えてしまいました。戦争というのは、今でも何故するのか分からないとおっしゃっていました。

平和学習に期待　－保護者の声－

今年の終戦記念日は、戦後70年ということで、多くのＴＶ番組で取り上げていたように思います。

これまで報道に使うことのできなかった、思わず目をおおうような映像を見て、こんなに多くの痛みや苦しみをもたらす戦争に何の意味があるのか？と改めて疑問を持ちました。

昨日、安保法案が可決され戦争が過去のできごとでは済まされない時代が、とうとう来してしまうのか……。人が人を殺す、あるいは自決する映像を見て、胸がしめつけられるような気持ちになりました。決してくり返してはいけないと思います。

当校の卒業生のお話を聞いて、とても希望を感じました。

中学校で居場所を見つけられなかったわが子が、こちらの学校でお世話になり、半年が経ちます。

この先の事はわかりませんが、人の一生という観点で子どもを見た時に、いつかトンネルを抜けて、人間の本質を理解できる人になって欲しいと思います。

ナガサキの証人たち

被爆講話の後、下平作江さんと学校長のスナップ

被爆70周年、30年間継続している旭丘高校のナガサキ修学旅行は、被爆地長崎の種々の「ナガサキの証人」の方々との協力・共同で進められています。広瀬方人さんは、元長崎工業高校定時制の英語の先生。ナガサキ証言の会代表委員。1985年から現在まで継続されている旭丘高校ナガサキ修学旅行の主任コーディネーター。

爆心地から1.5ｋｍ、学徒勤労動員中に被爆。

下平作江さんは、故渡辺千恵子さん、故山口仙二さん、谷口稜曄さん等「ナガサキ原爆青年乙女の会」のメンバーから講話を引き継ぎ被爆の体験や生活史、核と人間の未来に対する思いを語り継いでいる。爆心地から500m、浦上の防空壕で被爆。国民学校５年生で10歳。

森口さんは、ナガサキ証言の会事務局長（季刊雑誌「証言　ヒロシマ・ナガサキの声」の編集長）。毎年旭丘高校の生徒に碑めぐりのコース・証言者の手配や谷口稜曄さん、高校生平和大使の世話役を務める平野伸人先生、在外被爆者裁判、林京子「祭の場」を歩くゼミ等の下準備のボランティア活動を行っていただいている。

下平作江さんの被爆講話への感想

２ＵＣ　下村真菜未さん

当時の人々は、栄養失調になるほど食べ物がなかった。私たちは本当に恵まれていると感じ、このことだけでも過酷なものだと思います。だけど、焼けただれた人が周りにいるのは本当に悲劇的な光景だったと思います。今まであった建物が何もない状況、下平さんは妹と男の子を連れて、お姉ちゃんの死体を見てしまったり悲しいという感情どころではないと思います。そしてその後の苦しみのため妹さんは自殺までして、下平さんご本人も自殺をしようと考えました。そんな下平さんだからこそ、今の私たちに「死ぬ勇気を捨て、生きる勇気を持ってください」と言えるのだと思いました。そして下平さんが今こうして私たちに伝えてくれたことをちゃんと考え、行動していきたいと思いました。

生徒たちの50字メッセージ

Message

（平和学習を総括する集いで各ＨＲから選ばれた50字メッセージ）

❖私たちが目指したい未来は戦争で核兵器を使う世界ではなく、核の力で苦しむ人が出ない平和な世界だ。（水島淑希さん）

❖もし原爆がなければ、人々は平和で空は青くきれい。核兵器や戦争、原爆の恐ろしさ、絶対に忘れてはならない。（坂本真緒さん）

❖今はしっかりと整備されてきれいな土地。その中には被爆者たちの思いや魂がこめられている。

❖人はみな平等であるといいますが、戦争が起きるとまず平等が壊され人が人でなくなる。僕らを巻き込むな。

❖戦争の苦しさや悲しさを忘れてはいけない。忘れてしまったらこの先の未来で戦争がまた起こってしまうから。

❖戦争は二度とこれからもあってはいけない。数えきれない命を奪うのではなく、助け合える人間になりたい。

❖私は生きる勇気と死ぬ勇気ということばに心を動かされました。これ以上被害が出ないよう私たちが未来を変えたい。（田邉亜美さん）

❖家に帰れば家族がいる日常が戦争によって壊される。過去を知って今の本当の平和を忘れず守っていく。（比嘉友希さん）

❖核兵器は一つの爆弾で何万人もの人が死んでいってしまう。命の重さは地球より重いと聞き、命を大切にしたいと思う。（杉山和輝くん）

❖戦争をして人の命を奪って手に入れたものなんて何もならない。むしろ失うものの方が多いだけだ。（吉沢南海さん）

❖戦いだけが正義じゃない。会話し相手と自分が分かり合い共に生きることに意義があり、それが出来たとき平和がくる。（宇田川萌さん）

長崎修学旅行のリーダー・旅行委員の皆さんの声

Message

〈旅行委員として頑張ったこと〉

●頑張ったことは、旅行中の合同班長会とＰＴＳ懇談会での発表です。合同班長会では、その日にあった事を報告し、問題点を解決したり次の日の目標を決めるのに苦労しました。ＰＴＳの合唱構成詩はとても緊張しましたが、良くできたと思います。

●委員を引き受けたからにはちゃんと最後までやりとげたいという気持ちが強く、どんなことでも自分に出来る事は頑張って来たと思っています。

●折り鶴の指示をしたり、数えたりなどで頑張りました。また平和学習の感想などを積極的に発表しました。旅行委員としての自覚も自分なりに深くなって、リーダーシップを発揮する事が出来たと思います。

〈合唱構成詩を発表して〉

●はじめのセリフを任されて、緊張と不安がありましたが、自分なりにやり遂げることが出来ました。旅行委員としていろいろな事に挑戦したことは自分の成長につながったと思います。

●平和への思いを込めて「折り鶴」「アンジェラスの鐘」を合唱しました。私たちが長崎で感じた原爆の恐ろしさ、平和の大切さを沢山の保護者の方に知ってもらえたのではないかと思います。

●短いセリフですが、しっかりと気持ちを込めて言葉を発しました。戦争をなくすため、戦争を体験した方々の悲惨な体験と気持ちを伝えようと努力しました。

合唱構成詩は、決して忘れてはならない過ちである戦争の現実を見事に再現していたと思いました。過去に起こしてしまった愚かな戦争への戒めとして、そして未来への教訓として、親である私たちも再度戦争について平和について深く考えさせられました。

（保護者の感想）

学びと自治を深めたベーシッククラスの修学旅行

Message

◆みんなで修学旅行に行きたい

私たちのクラスは、日頃は欠席が多く、全員がそろう日がなかったので何とか全員で修学旅行に行き、思い出をつくりたいと強く願って取り組みました。班長が欠席の多いクラスメイトに班長が日々連絡をし声をかけて行きました。修学旅行前に宿舎での決まりについての要求を実現するために学年としても欠席・遅刻を減らそうという取り組みが始まりました。長く休んでいたクラスメイトに思い切ってそのことを伝え、学年の取り組みに協力してほしいと訴えたら、学校に来てくれました。

取り組む中で家の事情と身体のことで二人の生徒がどうしても参加できないことがわかりました。とても残念でしたが、その他には必ず全員で行こうと取り組みを続け、当日空港に全員がそろったときには、班長たち皆で心から喜び合いました。

◆戦争や平和の問題をナガサキの現地で考えたい

私自身、事前学習とともに戦後70年・被爆70年をテーマにした教育研究集会や公開まちづくりシンポジウム等に参加することを通して長崎の現地で考えてみたいこと、学びたいことがたくさんありました。例えば、原爆等の被害の側だけでなく加害の面からも日本の戦争をとらえてみたいこと、これから日本の平和を作っていくために何をするべきなのか、果たして今の日本は平和と言えるのかということ等です。また、戦争や平和の問題を日常の生活と結びつけてとらえて行きたいという思いがありました。

◆下平作江さんから感じた平和を語り継ぐ強い意思

被爆体験を語って下さった下平作江さんは、私たち旭丘高校の修学旅行団が長崎に行く前日まで入院されていたのに、私たちに思いを伝えたいと医師に頼んで退院して来られたとのことでした。目や耳も不自由になっている身体で自らの体験を語る下平さんから、後世に語り継がなければならないという意思の強さをひしひしと感じました。そして、そんな下平さんと出会って、いっそう私たちが平和を語り継いで行かなければならないと思いました。

◆修学旅行に参加して変化した仲間の姿が嬉しく

私自身、中学校時代学校に行けない時期に修学旅行だけは参加したのですが、やはりどこか気後れがして馴染めませんでした。今回、普段学校を休んでいて参加したクラスメイトが同じような気持ちにならないかが心配でした。けれどそういうクラスメイトも班討議の場面で積極的に意見を言い、他の仲間を評価する発言をしていました。こういう姿を見て、この修学旅行で自分がホームルームの一員だという意識を持ってくれたのだなと、とても嬉しく感じました。

◆みんなの力でホームルームがつくられて来た

そして、そうした私たちのクラスの動きを全体の自治指導を担当した学年の先生が、「２年Ａ組は、学年をリードしていけるクラスになった」と評価してくれたときは、涙が出そうになりました。私たち班長は、難しい目標かもしれないけど、「クラスの皆に信頼され尊敬されるような班長会になりたい」と思って頑張って来ました。そして、その結果が形になった気がします。２年Ａ組には、班長以外にもクラスのことや他人のことを思いやる力のある人がたくさんいます。そんなみんなの力でホームルームがつくられて来たのだと思います。

（２年Ａ組学年委員：梅林栞さん）

平成27年度　旭丘高等学校・２学年「平和宣言」(抜粋)

長崎に原爆投下がされてから、今年で70回目の夏が来ました。一発の原爆によって街が地獄と化し、今なお多くの人々が苦しんでいることを思うと、深い悲しみ、恐怖、怒りを感じます。

今年の８月６日、松井広島市長は平和宣言で、世界に呼びかけました。「人間は、国籍や民族、宗教、言語などの違いを乗り越え、同じ地球に暮らし一度きりの人生を懸命に生きるのです。私たちは『共に生きる』ために、『非人通性の極み』、『絶対悪』である核兵器の廃絶を目指さなければなりません。そのための行動を始めるのは今です。」

続く８月９日、長崎での平和宣言で田上市長は私たちへ向けて呼びかけました。「若い世代の皆さん、過去の話だと切り捨てずに、未来のあなたの身に起こるかもしれない話だからこそ伝えようとする、平和への思いをしっかりと受け止めてください。『私だったらどうするだろう』と想像してみてください。そして、『平和のために、私にできることは何だろう』と考えてみてください。若い世代の皆さんは、国境を越えて新しい関係を築いていく力を持っています。」

さて、現在私たちは今平和な世の中を築けているのでしょうか。現在私たちを取り巻く環境は劇的に変わりつつあります。まず、集団的自衛権に絡めた憲法改正が議論されている状況があります。日本は唯一の被爆国であり、二度と悲惨な戦争を繰り返さないということで日本国憲法が施行されました。日本国憲法では３つの柱があります。「平和主義」「基本的人権の尊重」「国民主権」です。『平和主義』では陸・海・空軍その他の戦力を保持しないと規定されています。

（中略）

ヒロシマ・ナガサキだけでなく日本各地に本土空襲による戦争の爪あとが残っています。（中略）

私たちは戦争を体験することはできませんが、知ろうと努力し、その立場に立つことはできます。そこで私たちは長崎の原爆で亡くなられた方の１人１人に祈りを込めて、７万４千羽の折り鶴を折りました。１羽１羽を折りながら、亡くなられた方々を思い、７万４千という莫大な数に原爆のもたらした、一瞬の死のおそろしさを改めて実感しました。

私たちは「戦争放棄」をうたった日本国憲法に護られています。しかし、それを、私たちは生かしきれていません。また、過去、日本がどんな過ちを犯したのか、そして今なお、世界でテロや内戦、飢餓や伝染病、地雷や化学兵器による後遺症、核実験による被爆で多くの命、人生、夢が奪われている事実を知る必要があります。私たちには責任があります。

戦争を体験された方の高齢化が進み、直接話を聞くことが難しくなっているなか、私たち自身が次の世代へ語り継いでいかなければなりません。直接体験を聞いた私たちが、この記憶の守り手となり、次の世代に伝える責任があります。

「平和」というととても大きな問題に思えますが、私たち自身が抱える身近な問題から考える必要があると思います。（中略）私たちは長崎で学んだことを糧に、現状に流されることなく、みんなと手を携えて、問題を乗り越えていきます。

私たちは唯一の被爆国に生まれ育ち、長崎で学び体験したことを生かし、核兵器廃絶、人間が大切にされる社会の実現に努力することを誓い、ここに宣言します。

2015年８月21日　２学年小旅行委員会

平和への学びを深めてほしい

－学校長と生徒会総務の懇談より－

日本国憲法（1947年）の前文に、「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」との文言があります。

皆さんは、これまでどこかでフランス人権宣言（1789年）やアメリカ独立宣言（1776年）に触れ合ったことがあると思います。この日本国憲法の前文にある「恐怖」から免かれるとの意味は、フランスの絶対王政（専制政治）の時代、人が人としての自由つまり市民的自由が認められていない歴史状況のとき、市民・人間としての「自由に生きる権利」そのものを宣言したものです（自由権的人権）。このような市民的自由権が認められた後、世界史的には、産業構造や社会のしくみの変化にともなって、資本家階級と労働者階級が生まれ、新たな貧困と欠乏などの社会的・経済的差別が生じ、労働者・市民の人間的な生活権が奪われます。「欠乏」から免かれるとは、ヨーロッパを主戦場とした第１次世界大戦を経てつくられた旧ソ連のレーニン憲法やドイツのワイマール憲法に規定された、労働者・市民が人間として人間らしい生活を営む権利、いわば人が人として「豊かに社会生活を送る生きる権利」を指しているものです（社会権的人権）。

そして、戦後70年、アジア太平洋戦争・第２次世界大戦への痛苦の反省の上につくられた日本国憲法に世界の憲法史上はじめて「平和に生きる権利」、つまり「平和的生存権」が現代における国民的人権として規定されました。

このように「平和的生存権」は人類が世界史の中で獲得して来た「自由に生きる権利」・「（労働者・市民が）人間らしく豊かに生きる権利」に引き続く第三の人権である「平和に生きる権利」であります。そのことを日本国憲法前文の中から読み解き、憲法学説としたのが、新名学園私学教育研究所初代所長、私たちの学園の理事を務められた憲法学者の故星野安三郎先生です。

皆さんもナガサキ修学旅行・平和学習ともかかわって、人類が獲得してきた自由・平和・人権について、その普遍的価値をしっかり学び取り、未来をひらく自らの生活や進路の指針としてほしいと思います。

（9.8学校長－生徒会総務懇談の記録を基に編集部が学校長に聞き取り編集しました）

１学年と３学年のPTS懇談会から

特集では、ナガサキ修学旅行を節目に「平和と人権」をテーマとして展開される２学年の学びと自治の姿に焦点を当てました。ここでは、１学年と３学年のＰＴＳ懇談会のなかから、今年度新設されたクリエイティブクラスの生徒たちの意見表明と、それぞれの学年の主任の言葉を紹介します。

生徒の意見表明　普通科：クリエイティブクラス

今年度より新設された普通科クリエイティブクラスの生徒の意見表明
―ＰＴＳ懇談会で代表として発表した生徒から聞き取りました―

●１年１組：落合圭吾くん（町田市立成瀬中学校卒）

旭丘高校の体験入学に来てクリエイティブクラスのことを知り、自分には学び直しをしたいという気持ちがあったので、親にこのクラスに行きたいと話しました。

中学校の時は、ノートは一生懸命書いても内容が理解できていませんでした。一度分からなくなると悪循環で、どんどん追いつけなくなります。特に数学が苦手で、高校に入ったらそうした苦手なものを克服したいと思っていました。

いまは、授業がわかるという手応えがあります。教科書とノートというスタイルだけではなく、先生たちが私たちに合わせてプリントをつくり、一回一回の授業でそれをやり切るように指導してくれるのがよいです。勉強が好きになって来ました。

勉強以外にも、友だちと一緒にクラスの活動に取り組んだり学習に取り組んだりする関係になり、自分ではちょっと大人になった感じがします。

これから旭丘を受験する皆さんには、クリエイティブクラスは少しずつゆっくりていねいに学べて、自信もつくし楽しいよと言いたいです。

親が料理が得意でお店を持つ計画があるので、自分も将来はそれを手伝いながら修行して料理人になりたいと思っています。

●１年２組：三瀧優くん（藤沢市立大庭中学校卒）

中学校の時に勉強がわからなくなって追いつけなくなってからやる気をなくして勉強をサボっていたのですが、中学校の先生から旭丘高校に勉強のやり直しができるクラスがあると聞いてこのクラスに志願しました。

自分を変えたいという気持ちがあって、入学してすぐ班長にも立候補しました。自分が声をかけたり、働きかけることで、友だちやクラスに少しでもプラスになれるならうれしいなという気持ちでやっています。

班長をしていて一番手応えを感じたのは、全員で参加しようと取り組んだ社会見学で、遅刻はあったけど、現地の横浜で皆が揃うことができた時です。自分もそうだけど、最近ちょっと中だるみになっているので、あらためて全員進級を目指して取り組んで行きたいです。

授業は「数量」が好きです。もともと考えるのは好きだったのですが、中学校の時は分からなくなっていたので。

これから旭丘を受験する後輩たちには、今自分がダメだと思っている人でも、積極的になれば変われるチャンスがあるんだよと言いたいです。

ＰＴＳ全体会での三つの学年の主任・責任者の挨拶（エッセンス）

◆３学年主任：小泉和人先生

各界で活躍する３人の卒業生（自分の教え子）がいます。母子家庭で経済的な困難を抱えていたが勉学に励み県の二つの奨学金の基準をクリアして美容の専門学校に進学し、病気で理容室が出来なくなったお母さんの後を継いで理容師になったMくん。ボウリングの教え子で今年プロテストに受かったＹくん。卒業してすぐオーストラリアに３年間留学し、苦手な英語を克服してプロゴルファーになり「賞金もらったら先生と飲みたい」言うFくん。この３人のように、生徒たちが自分の夢をあきらめないで実現に向けて努力を続けるよう、保護者の皆さん、手をつないで生徒たちを励まして行きましょう。

◆３学年総合学科責任者：菅原亮先生

３年総合学科では「全員卒業」と「全員進路」を合い言葉に学年委員会・班長会がリーダーとなり取り組みを進めてきました。あるクラスでは日常の欠席・遅刻がなかなか改善されませんが、新任のＯ先生は、班長会と共に日々対話し、討議し改善へ模索しています。担任と班長会が共同し、あきらめない姿勢があれば変化が生まれてくると確信しています。ここには旭丘高校だからこその学びがあります。一緒に喜び・迷い・解決していく「共同する力」は、社会を生きていく時の一番大切な力です。高校生活は残すところ75日程度。３月１日に笑顔で全員が卒業式を迎えられるよう共に力を合わせて行きましょう。

◆１学年主任：中村友哉先生

夏の甲子園を沸かせた早稲田実業の清宮幸太郎くんの父・清宮克之さん。人生の師とも言えるこの人の本を読み返し指針にして臨んだある日の班長会。長期欠席のＡ子のための席替えをどうするか。生徒たちは担任と真逆の意見を出しましたが、日常生活を共にする中での他者認識に裏打ちされた生徒の提案が功を奏しました。子どもたちの成長を感じた瞬間でした。しかしまだ、様々な課題・問題があります。16歳、迷い・葛藤し繊細な年齢。ジグザグを繰り返しながら長い目で見れば自立に向けて歩きだしている。そんな16歳の同伴者・親としての苦しみや悩みを私たち教師と相談し共に解決して行きましょう。

◆１学年総合学科責任者：石野健太郎先生

社会見学で各ＨＲは自身のＨＲを分析しながらＨＲ方針や班ごとのテーマを作成し、取り組みました。体験や交わりを通して、子どもたちは今まで以上にＨＲ全体が仲良くなったや、つながることができたと感じるようになりました。職業観・労働観の獲得もありました。指導機関である学年委員の方針提起を受け止めて班長会での討議や班討議等を重ね、ＨＲ・学年全体の成功を目指して取り組んだことで、子どもたちは他者・集団とのつながりをもち、その集団の教育力から子どもたちは自身の認識を組み替えながら大きく成長してきました。子どもたちを真ん中にして、子どもたちの成長を共に支えていきましょう。

第２次日中友好・スポーツ・文化交流訪中団報告

－中国・西安外国語大学附属西安外国語学校と安陽第37中学校との交流－

〈はじめに〉

本学園は21世紀国際化・情報化の時代に対応して2012年の学園創立110周年を機に記念事業の一環として国際連携教育を始めました。

昨年の３月、第１次訪中・交流がなされ、本年は下表のとおり３月23日～29日までの６泊７日、水野理事長・学校長を第２次訪中団団長として生徒６名､引率と教育実践担当の教師５名、総勢12名が西安（昔の長安）と河南省安陽を訪れました。

以下に第２次訪中･交流の概要を報告します。

〈Ⅰ〉第２次訪中・交流は次の３つの目的をもって取り組まれました。

①西安外国語学校主催の日中米三国の高校生交流「歓迎セレモニー」や「お別れの集い・晩餐会」等の場で本校生徒会会長北野絵里花（総合学科２UA組）と副会長池淵健次郎（普通科２年５組)が生徒会を代表して中国語で挨拶をし、その基調で同行のクラブ部員たちが交流の密度を濃くすること、②今回は（武道・剣道）と文化（国語と書道）の授業を通じて交流を深め、合わせ西安外国語学校との姉妹校提携の「協定」の更新を図ること、③安陽市の〈殷墟〉や世界文化遺産・〈始皇帝・兵馬俑〉、北京の天安門広場、万里の長城などを見学すること。

〈Ⅱ〉交流は次の①～⑥のように取り組まれました。

交流①　３月23日〈始めの集い〉。「ようこそ西安外国語学校へ」の歓迎のフレーズが映し出されているなか、水野校長の挨拶と謝辞、西安外国語学校日本語教師と生徒の紹介、本校生の自己紹介（中国語で）がなされました。

交流②　３月24日。この日はあいにく雨が降り、移動が少したいへんだったが秦の始皇帝・兵馬俑と西安市内のイスラム街を見学し、兵馬俑のスケールの大きさに圧倒されたり驚嘆したり、珍しいイスラム街の土産物店をひやかしたりして結構楽しい一日でした。

交流③　午前中１時間目は西安外国語学校の英語と日本語の授業を参観しました。中国高校生の英語と日本語の達者なのに驚き、いい刺激となりました。

２時間目は、本校芸術科・書道の教師で書道部顧問の秋山公樹先生による書道：「創作うちわ作り」の授業です。対象は西安外国語学校の生徒30名と本校生６名です。授業のねらいは、書道の授業を通して日中高校生の文化交流を行うことが中心で、実践者の秋山先生はこんな感想を述べています。

書道や漢字は中国から伝わった文化であり、その中から日本独自の仮名やカタカナが創り出され、いまの日本語となっています。

その中国の高校生と日本の高校生が書道の授業を通して文化交流ができたことや、授業実践の場を設けていただきました新名学園旭丘高校と西安外国語学校の皆様に心より感謝申し上げます。

書道発祥の地である中国の高校生にどのような教材を準備し、何をどのように指導したらよいのか正直たいへん悩みました。そこでふと気づいたことが「生徒たちがもっと生き生きと主体的に活動できる授業・教材はなんだろう」ということです。その考えの中から、日常、旭丘高校の授業でも行なっている「創作うちわ作り」に決まりました。

実際に中国でこの授業をやってみたところ、両国の生徒たちも生き生きとしてアートとしての「創作うちわ作り」に主体的に取り組み、交流も深まったと思いました。

当日の３時間目は本校国語科教師で生徒会主任顧問の吉村功之良先生による日本語の授業：「擬音語で遊ぼう」の実践交流です。実践者の吉村先生は次のような感想を述べています。

中国と日本の生徒のみなさんと一緒に日本語の擬音語・擬態語の学習ができたことを喜びたい。日中両国の生徒の皆さんが一生懸命授業に参加してくれたので､私がねらいとしていた「日本の特徴としての擬音語」について問題提起をすることができたのではないかと思っています。

通訳していただいた先生や、参加してくれた生徒の皆さんに改めて感謝申し上げます。

午後の４時間目は体育（武道・剣道）の教師で剣道部顧問の大塚将史先生（剣道５段）と本校事務員・剣道部コーチの芦澤一也さん（剣道６段）の共同による剣道の授業実践です。この授業には剣道部員２名〈小泉直生（総合学科２年UA組）と蒔田祐太（総合学科２年UB組)〉参加しました。実践者の大塚先生は次のような感想を述べています。

授業準備の段階で不安に思っていたことは言葉の問題です。思った以上に中国の生徒たちが日本語を理解していたことと通訳の先生のおかげで剣道はどんなものか伝えられたのではないかと思います。

今回の授業では、礼法と竹刀操作をメインとし日本の伝統的武道の精神と技を少し伝える程度の内容ではありましたが、中国の生徒の皆さんがとても真剣に授業を受けてくれました。

今回の授業で、私自身改めて剣道の基礎・基本の大切さを知る良い機会となりました。初心に返って精進していきたいと思います。

貴重な異文化との交流、中国の人たちとの交流の機会をいただき､ありがとうございました。

交流④　午後、放課後、昨年と同様日中米三国の高校生〈日本（旭丘高校)、中国（西安外国語学校、米国（Gould　Academy)〉交流の歓迎セレモニー。

水野校長先生の挨拶と交流記念のプレゼント交換。剣道の演武と日中米三国高校生のお国柄を反映したユニークなパフォーマンスで、会は大いに盛り上がりました。

なお、この日、水野校長先生は西安外国語学校学校長張懐斌先生と懇談を重ね、姉妹校提携にかかる交流「協定」の更新を行ない、４月初旬の同校の第１次来日・来校についての方向づけが確認されました。

交流⑤　３月26日。当日は安陽市の関係者の案内により甲骨文字の発現地である殷墟博物館と文字館を見学しました。文字館では、中国の書家によるワークショップが行なわれ、生徒たちは漢字が表意文字であるとともに象形文字であることをつぶさに学び認識することができました。漢字文化にかかる日中交流については今年の文化祭で書道部と法人事務局が展示紹介します。

交流⑥　安陽第37中学校との初交流。中国の古典音楽の鑑賞・切り絵の日中高校生コラボレーション、剣道の授業と中国のスポーツの交流、書道交流など多彩なスポーツ・文化交流となりました。

〈結びにかえて〉

今回は紙面の都合で生徒の感想文をご紹介することができませんでした。学報クローバーの次号で生徒の声を載せたいと考えています。

〈文責：法人事務局〉

●新名学園旭丘高等学校第２次訪中団（学校長・引率教師５名・生徒６名、計12名）
第２次訪中・交流の経過・日程表（2015年３月23日～３月29日）〈６泊７日〉

日時	旭丘高校	西安外国語学校・安陽第37中学校他
３月23日(月) (西安１日目)	名古屋（中部国際空港）８：55発→上海乗り継ぎ→西安（西安咸陽空港）14：10着→西安外国語大学附属西安外国語学校15：00着 交流①　始めの集い（あいさつ・紹介スピーチ等） 校長・教職員：西安外国語大学関係者と夕食懇親会 生徒：ホームステイ　校長（ホテル)、教職員：西安外国語学校宿舎に宿泊	出迎え。西安外国語学校公用車にて移動 始めの集い（西安外国語学校日本語科教師と生徒の紹介、クイズ、ゲーム交流） ホストファミリーの紹介
３月24日(火) (西安２日目)	交流②　午前：始皇帝兵馬俑見学　午後：西安市内見学（イスラム街） 宿泊は前日に同じ（生徒：ホームステイ）	兵馬俑付添　西安市内案内 ホストファミリー
３月25日(水) (西安３日目)	交流③　午前①西安外国語学校の英語と日本語の授業参観 ②西安外国語学校日本語科の生徒対象の書道(秋山)、国語〈日本語〉(吉村)の授業実践 午後①武道〈剣道〉(大塚・芦澤）の授業実践 交流④　歓迎セレモニー（日中米三国の生徒交流）　水野校長あいさつとプレゼント交換 剣道演武、日中米三国高校生のパフォーマンス　全員合唱（「蛍の光」〈英語〉） 夕食（晩餐会）日中米高校生・教職員交歓・お別れの集い ・日本（旭丘高校）　・中国（西安外国語学校）　・米国（Gould Academy） 宿泊は前日に同じ（生徒：ホームステイ）	中国教師による英語・日本語授業実施 旭丘高校教師による書道・国語・剣道実施交流 旭丘高校との姉妹校「交流協定」の更新と４月の来日計画についての打ち合わせ 歓迎式の会場づくり・運営 ホストファミリーとのお別れ
３月26日(木) 安陽１日目	西安北駅11：00発高速動車にて安陽東駅14：31着 交流⑤　甲骨文字の発現地殷墟見学 文字館見学（中国の書家による甲骨文字（「山高水長」）の書道ワークショップ） 宿泊先：全員安陽ホテル	見送り。 安陽市関係者による出迎え・案内
３月27日(金) 安陽２日目	交流⑥　安陽第37中学校（日本の高校にあたる）訪問・交流 ・全体交流（中国古典音楽・切り絵等技芸交流）　・武道（剣道）交流　・書道交流 宿泊先：前日に同じ	文化行為（中国文化と日本文化のワークショップ）
３月28日(土) 北京１日目	安陽東駅10：05発高速動車にて北京西駅12：40着　北京市内見学（万里の長城） 宿泊：全員北京大方ホテル	コーディネーター（西安外国語大学日本語専攻卒業生〈魏さん〉）
３月29日(日) 北京２日目 帰国	午前：市内見学（故宮博物館・天安門広場等） 午後：北京空港発14：00→上海乗り継ぎ→成田空港20：55着 (中国東方ＭＵ271)	コーディネーター：前日と同じ人

日中友好

日中友好　高校生文化・スポーツ交流と地域交流
西安外国語大学附属外国語学校の第１次来日・来校　交流活動報告

待ちわびた中国の生徒たちが日本に到着

2015年４月３日(金)から８日(水)までの６日間、西安外国語大学附属外国語学校から崔平副校長と索莉虹教諭（通訳兼務）の引率のもと日本語学科の生徒10名〔高校１年生が５名（男子２名・女子３名)、中学校１年生が５名（男子２名・女子３名)〕が来日・来校しました。

４月３日(金)、西安から上海経由で成田空港に15時55分到着予定だった訪日団は、飛行機の遅延により夜遅くに到着。待ちわびていた水野理事長・学校長をはじめ旭丘高校の生徒・教職員から出迎えを受けました。

地域交流ー西湘日中友好の集いへの参加・ういろう本舗見学ー

翌４日(土)は東京都内を見学し、５日(日)に新幹線で小田原へ。午前11時から国際交流ラウンジで本校の教員・生徒と共に「西湘日中友好の集い」に参加しました。集いでは、中国の生徒たち一人ひとりが中国語・日本語・英語をまじえて自己紹介と意見表明。会場からは、励ましの声が飛んだり合いの手が入ったりと、喜びと熱い歓迎の気持ちが伝わって来ました。また、旭丘高校演劇部の生徒も第１次訪中に際して西安外国語学校で公演した「外郎売り」の口上（暗唱）を披露。会場から驚嘆の声が上がりました。

集いの後は、桜を見ながらお掘り端通りを歩き、学び橋から小田原城址へ、天守閣を見学して広場でお城を背景に記念撮影をしてから二宮神社の境内を抜け、ういろう本舗へ。ここでは付属博物館で当主の外郎武さんから、六百数十年前に中国から日本に帰化し、その後小田原で北条早雲の時代から五百年間伝統を守り続けて来た外郎家の歴史について説明を受けました。中国の生徒たちは自国の文化が長い年月にわたって日本で継承されていることに関心を持ち、熱心に聴き入っていました。そして旭丘高校に戻って休憩をとった後、16時ごろホームステイ先の方々と顔合わせをし、それぞれのご家庭に向いました。

日本と中国の文化のつながりの深さを実感

６日(月)は、ホームステイ先の方々に伴われて朝８時15分に小田原駅西口に集合。旭丘高校の教員・生徒と地域の禹王研究会会長を務める大脇良夫氏、中国出身の崔さん（女性）と共にバスでフィールドワークに出発しました。行きのバスの中では、中国の生徒たちがホームステイ体験を報告。美味しい日本の食事をご馳走になったこと、夜遅くまでの家族ぐるみの交流のことなど、それぞれが生き生きと楽しそうに語りました。

一行は、松田山の中腹から富士山を眺望、足柄平野を見渡しました。来日以来はじめて、この日は晴天となりました。白い雲で顔を隠していた富士山と菜の花をバックに、笑顔で記念撮影をしました。

そして南足柄市の大口にある福澤神社で、大脇氏の案内・説明により酒匂川文命東堤碑（中国古代夏王朝の禹王を治水神として祀り、防災・安全を祈願したもの）を見学しました。大脇氏が碑文の中の「禹」の文字に注意を喚起したときには、教科書で禹王の事績を学んでいた中国の生徒たちから驚きの声があがりました。

取材に入った新聞記者のインタビューに中国の卞栎珺さんは「禹王のことが遠く日本で大切にされていることに感動した。文化のつながりを感じる。」と、本校の北野生徒会長は「日中の学生が一緒に学ぶ貴重な体験。国籍を越えて交流ができて良かった。」と答えました。

旭丘高校の教育の様々な場面に触れ合って

その後、旭丘高校第２校地（久野・荻窪キャンパス）で生徒（生徒会総務・ホームルーム代表・クラブ代表）と教職員、保護者など総勢約100人による歓迎レセプション。「餅つき」のパフォーマンス、ＰＴＡの皆さんからの歓迎のメッセージを彩ったチラシ寿司とちゃんこ鍋の振る舞い、相撲の授業を通しての交流が行われました。そして、歓迎交流集会は、崔副校長・水野学校長・北野生徒会長の挨拶、中国の生徒たちの自己紹介、ブラスバンド部の演奏、演劇部の公演、各クラブ代表の歓迎の言葉が続き、書道部による書の交流パフォーマンスで幕を閉じました。

７日(火)、中国からの一行は旭丘高校の入学式に参列。崔副校長から「生徒を大切にした入学式。」「不登校生徒の発達保障を図るベーシッククラスの取り組みは興味深い。」との感想。式が終わり、中国の教員・生徒は新名会館で同窓会主催の茶道交流に参加。昼食後、水野理事長・学校長をはじめとする教職員・生徒代表と共に貸切りバスに乗り込み、箱根大観山、箱根離宮、芦ノ湖を見学しながら箱根ホテル小涌園へ。

涙、涙のお別れ交流会

小涌園では、お別れ交流会。日中の生徒たち一人ひとりが意見表明しました。中国の王煜顕くんは、「日本人はとても親切です。私は日本人の友達と先生が大好きです。私にとって初めての外国旅行。でも皆さんは、まるで私の家族みたいです。日本文化のルーツに中国文化があることも知りました。私から見れば日本と中国は二つの国ではありません。皆さんのことをずっと忘れません。」と語り、生徒たちは涙、涙のお別れ交流となりました。

最終日の８日(水)。この時期には珍しく雪が降る中、訪日団は旭丘高校の教職員に付き添われて専用バスで成田空港へ。13時50分発の飛行機で無事に帰国しました。

●中国・西安外国語大学附属西安外国語学校第１次訪日団（副校長・引率教師(通訳）１名・中高生10名、計12名）第１次来日・交流の経過・行程表　(2015年４月３日～８日）５泊６日

日時	西安外国語大学附属西安外国語学校	旭丘高校
４月３日(金) 来日１日目	西安（咸陽空港）　８：00発→上海乗り継ぎ→成田空港　15：55着→京成特急・成田スカイアクセス線にてスカイツリー前（押上）駅へ移動 交流①　スカイツリー見学　夕食・歓迎会（スカイツリー内） 宿泊：ホテルユニゾイン浅草	出迎え（成田空港） 旭丘高校公用車にて荷物移動 見学案内（班別行動）
４月４日(土) 来日２日目	交流②　東京都内見学 午前：秋葉原電気街・歌舞伎座・銀座・博品館 午後：新橋ゆりかもめ・隅田川下り（遊覧船）　浅草観音と仲見世見学・雷門 宿泊：前日に同じ	都内見学案内
４月５日(日) 来日３日目	浅草→東京駅・新幹線にて小田原へ移動 交流③　西湘地区日中友好協会の交流の集い（小田原国際ラウンジにて） 午後２時～４時　小田原城（お堀端・桜）→ういろう（博物館見学）→天守閣→旭丘高校着 宿舎：中国教師（２名）大磯プリンスホテル　生徒（10名）は日中友好協会の方の家（ホームステイ）	日中友好協会の集い参加 小田原城・ういろう案内
４月６日(月) 来校１日目	交流④　午前：中国禹王関係遺跡（文命東堤碑・福澤神社）と富士山遠望（第一生命施設から）のフィールドワーク① 交流⑤　午後：旭丘高校第２校地（久野・荻窪キャンパス）での歓迎レセプションとスポーツ・文化交流 「餅つき」と「ちゃんこ鍋」・弁当（ＰＴＡ・相撲部） 相撲授業交流、文化交流（演劇部・吹奏楽部・書道部等の公演・ゲーム等） 宿泊：全員サンサンヒルズ小田原	フィールドワーク①の実施 資料作成・配布・現地案内・説明 地域の禹王研究会会長（大脇良夫氏）の説明協力 ＰＴＡ、父母、生徒会、クラブとの協働
４月７日(火) 来校２日目	交流⑥　午前：旭丘高校入学式に参加・見学 茶道交流（新名学園創立百周年記念会館にて旭丘高校同窓会主催） 午後：旭丘高校生との共同フィールドワーク② 箱根・大観山展望台にて富士山遠望、箱根離宮にて芦ノ湖遠望 交流⑦　お別れ・晩餐会　18：00～19：30　ホテル「小涌園」にて 宿泊：全員箱根ホテル小涌園	入学式参加誘導 茶道交流・同窓会との協働 専用観光バス添乗・フィールドワーク② お別れ会の会場づくり、運営
４月８日(水) 帰国	午前：専用バスにて　小涌園→成田空港へ 成田空港13：50発→上海乗り継ぎ→西安	見送り（成田空港）

Global education

旭丘高校の国際連携教育（足元からのグローバル教育）

日本・中国高校生文化・スポーツ交流、地域交流

旭丘高校では、学園創立110周年を機に国際連携教育として中国の西安外国語大学附属外国語学校との高校生文化・スポーツ交流がスタート。昨年は、3月21日から25日まで水野理事長・学校長を団長とする第1次訪中団（引率教師4名、生徒7名）が相撲部と演劇部による日本文化にかかわる交流をし、今年は3月23日から28日まで第2次訪中をし、日本語と剣道・書道にかかわる交流を西安外国語学校に加えて新たに安陽第37中学校との間で行いました。（水野理事長・学校長を団長に引率教師5名、生徒6名が訪中）

そして、4月3日～8日には、西安外国語学校の中学生・高校生計10名が西安外国語学校の崔平副校長と日本語担当教師1名の引率で来日・来校。旭丘高校の生徒・保護者・教職員・同窓生と様々な教育・文化・スポーツ交流を行うとともに、西湘日中友好の集いへの参加や酒匂川にある中国の治水神「禹王」の事績見学等の地域交流を行いました。

第1次訪中（2014年3月21日～25日）
西安外国大学附属外国語学校との高校生文化・スポーツ交流

●旭丘高校と姉妹校提携―西安外国語大学附属外国語学校―

西安外国語大学附属西安外国語学校―正門（左）と校舎（右）―

西安外国語学校　校訓：「琢玉」〔一人ひとりが勉学（不断の学習）により、自分の内なる玉を磨き出す〕

姉妹校「協定書」の取り交わし―水野理事長・学校長（左）と張懐斌西安外国語学校長（右）―

●「ようこそ西安へ」（歓迎の集い）―同時期に西安外国語学校を訪れていたアメリカのゴールドアカデミー校も交え、日・中・米の三国での高校生文化・スポーツ交流が実現

日中米三国高校生歓迎セレモニー・福島生徒会長挨拶（左）と相撲を通した交流（右）

日本語・コトバの授業で交流　授業者は吉村教諭（国語科）　演劇部の生徒が外郎売りの口上を披露

●中国4000年の古都―西安・安陽・北京の学習の旅

中国4000年の歴史の象徴（万里の長城）

北京・天安門広場　故宮・紫禁城

西安の歴史・文化に触れて（始皇帝兵馬俑見学）

第2次訪中（2015年3月23日～28日）
―西安外国大学附属外国語学校と安陽第37中学校（日本の高校）との交流

●授業と伝統文化の交流

書の心を学ぶ

書道の授業（秋山教諭）
西安外国語学校（左）
安陽第37中学校（右）

礼を学ぶ

武道・剣道の授業と演武
（指導者は大塚教諭）
西安外国語学校（左）
安陽第37中学校（右）

中国伝統文化の交流
（安陽）

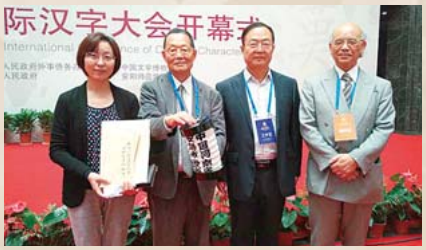
殷墟・甲骨文字発祥の地（安陽）
安陽市政府・日中友好協会から大歓迎を受ける

文字博物館でのワークショップ（漢字の源＝甲骨文字）
講師は昨夏来原した同館副館長李俊国先生

技と知、そして観をひとつに

▶水野理事長・学校長と管海涛安陽第37中学校校長

日本の教育と中国の教育～学術交流を展望して～



三輪定宣新名学園私学教育研究所所長・千葉大学名誉教授の講演～西安外国語大学にて「日本の教育制度と大学・大学生ー日中比較の観点からー」（2014ー11）（左）小田原市加藤市長・西湘日中友好協会から安陽市馬市長にメッセージを渡す（国際漢字大会の会場にて）（2015ー11）（右）

中国の教育政策である素質教育（日本の発達教育）について中国のマスコミからインタビューを受ける水野理事長・学校長

中国の中高校生の第１次来日・来校と文化・スポーツ・地域交流（2015年４月３日～８日）
西安外大附属西安外国語学校　教師２名・生徒10名来日

●東京・小田原見学と地域交流・フィールドワーク

東京見学・歌舞伎座にて（左）
小田原城址にて（右）

西湘日中友好協会の集いに参加

酒匂川の文命碑東堤碑の前でのフィールドワーク授業（禹王顕彰碑）と出会う説明者は開成町の大脇良夫禹王研究会会長

●旭丘高校の教育の様々な場面に参加・交流

◀餅をついているのは崔平副校長

▶PTAがチラシ寿司とチャンコ鍋でおもてなし

餅つきで歓迎（左）　PTAが食で歓迎（右）

相撲の授業で交流（左）
書のパフォーマンス交流（右）

中高校生は未来を創る一世界に一つだけの花」を合唱

旭丘高校の入学式参加

同窓会館でお茶のおもてなし（市橋元会長）

お別れ会（箱根小涌園）ー日中高校生交流の継続発展を誓い合う

交流の展望 —生徒の感想から—

comment

日本で中国の古代王朝・夏の禹王（文命）が治水神として祀られている碑に出会い、こんなに深くて長い日中の絆、友好の歴史が見えて感動しました。ですから、こうした事実を、もっとみんなに知らせ、中国と日本をつなぐ架け橋として行きたい。
（今年来日した中国の卞栎珺さん）

comment

国や言葉は違えども、心を通わせることができました。
これから次世代を担っていく高校生として、一緒にアジア・世界の社会や歴史の問題を考えていきたい。
（前生徒会長　福島幸栄さん）

●国際連携教育のカリキュラムが充実

国際連携教育の進展とともに「中国語」「韓国語」「イタリア語」「中国文化」「異文化理解」などの選択講座が充実。各教科の授業でもグローバル教育の視点が取り入れられ、インターネット授業交流が計画されています。（関連記事Ｐ23）

第21回 全学協議会

2015年７月11日（土）午後１時30分～４時30分、旭丘高校第１校地多目的ホールにおいて、第21回全学協議会（生徒会・教職員・ＰＴＡ・父母懇・同窓会・学園理事会・地域）が開催されました。今回の協議会は、「人をつなぐ　未来を拓く　子ども・生徒の声を聴く　旭丘高校教育目標『憲法と子どもの権利条約』を生かす学校づくりを進める第21回全学協議会」をテーマとし、約200名の参加者がありました。

「18歳選挙権」と「主権者教育」「市民性の教育」の課題を捉えて

特に今回の全学協議会は、国会で公職選挙法が改正されて「18歳選挙権」が成立、１年間の周知期間を経て2017年７月の参議院選挙で初めてこの制度が実施されるという状況のもと開かれました。

全学協議会に先立って行われた理事会の学習会の中での新名学園私学教育研究所所長の三輪定宣氏は、旭丘高校生徒会の社会参加の活動とそれを通した学びと社会的自立に向かう姿を、主権者教育・市民性の教育の運動・実践面での先進例であり、「18歳選挙権」の実現を促進する社会的な潮流の一翼を担ったものと評価しました。

協議会では、日本社会と高校教育の現代的な課題と向き合い、こうした実践の検証と更なる発展を図ることを目途として、協議会の前段に「18歳選挙権と主権者教育－生徒会の自治活動と結んで－」と題した記念講演（講師は、新名学園私学教育研究所の共同研究者である亜細亜大学教授の山岸秀先生）が位置づけられました。

生徒会の特別報告（参加・自治・学び）にかかわる討議がなされる

協議の場では、次のような生徒会特別報告にかかわり、生徒たちの学びと成長の姿を改めて検証し、生徒の学びの要求を汲み取り、教育課程づくりに生かしていく視点で討議がなされました。

①社会参加することを通した学びと自治の課題について
- －私学助成署名神奈川スタート集会への参加と生徒会として公費助成に取り組む意味
- －高校生・戦後70年『未来』プロジェクトへの旭丘高校生徒会としての取り組みの構想
- －史跡と緑の問題にかかわって学習環境を守る取り組みの到達点と自分たちの要求

②全校生徒自治集団づくりの到達点と課題について（生徒会規約改正や生徒憲章づくりと関連して）
- －この間の自治活動の発展としての拡大合同会議（生徒会総務、各学年・学科学年委員会三役、生徒委員会二役で構成）の討議の報告
- －各学年各学科（普通科・総合学科）の代表からの自治にかかわる取り組み報告

③昨年度実施した全校アンケートの集約とかかわって教育環境やカリキュラム・授業に関する要求と自治の課題について
- －衣替え期間の制服の着用についての要求（制度の運用に係る要求）
- －食堂や更衣室、トイレ等の施設にかかわる要求
- －選択科目の充実（グローバル教育に対応する講座や資格とつながる講座の開設等）や参加型の授業を求める要求

第20次（通算54次） 全学教育研究集会

2015年８月22日（土）・23日（日）　旭丘全学教育研究集会（第１部・基調教研）を開催

【テーマ】
戦後70年・被爆70年、いま日本国憲法を活かす学校づくりを
いま生徒たちの生きる現実と向き合い
子ども・生徒の発達の状況を確かめ合い
教育課程・校務分掌づくりと教育制度の改革を見据え
学びと発達、進路保障の創造を

【日程と内容】

●第１日目８月22日（土）　午後１時30分～５時
「基調報告」と「ホームルーム実践報告と交流」
①基調報告
②ホームルーム実践報告と交流
A分散会（１学年の実践）
○「クラス問題と向き合い、成長したクラスと班長」
報告者：金城将太
○「学年委員会・班長会を中心とした１年B組のHRづくり」
報告者：庄子大貴
B分散会（２学年の実践）
○「旭丘高校２年３組HRづくりと生徒の成長」
報告者：門倉寛和
○「１人の問題行動を通した班長会・生徒の変化」
報告者：川畑直也
C分散会（３学年の実践）
○「担任通信を通したHRづくり」報告者：小泉和人
○「ベーシッククラスの取り組み～３年B組～」
報告者：進士勇介
③まとめの集い
○分科会討議の報告〔各学年の主任・責任者〕
○共同研究者からのコメント
（共同研究者：関誠氏・小出湧三氏）

☆コーディネーター：水野浩（理事長・学校長）

●第２日目８月23日（日）　８時40分受付
★午前の部　９：10～12：15　場所：ホール
「総合技術」の公開研究授業と合評会
○授業の主題：「道具－機械－コンピュータ制御」
○実践者：吉田翔太郎
○共同研究者：
鈴木隆司氏（千葉大学）

★午後の部　13：30～17：00
場所：ホール
記念講演とシンポジウム
○あいさつ
宇佐美ミサ子
（「あり方懇」世話人副代表、地域史・女性史研究者）
北野絵里花（旭丘高校生徒会長・全学教研事務局）
青木敏江（PTA会長）※六者懇談会の代表として
○記念講演
「未来をつくる君たちへ－戦後70年、地球時代を生きる主権者として身につけるべき教養と学力－」
講師：堀尾輝久氏（東京大学名誉教授）
○パネラー発題
Ⅰ．「18歳選挙権と市民性教育の課題－旭丘高校生徒会の参加・自治・学びとかかわって－」
発題者：三輪定宣氏（新名学園私学教育研究所所長・千葉大学名誉教授）
Ⅱ．「戦後70年～超高齢化社会に向けてのまちづくりの種を蒔こう」
発題者：中島明子氏（和洋女子大学）
Ⅲ．「いま子ども・生徒に必要な学びとは」
発題者：鈴木隆司氏（千葉大学）
○総括討議とまとめ

第24回
第25回

公開まちづくりシンポジウム

第24回公開まちづくりシンポジウムは、５月23日(土)午後１時30分～５時、「子ども・高校生の声に聴き　小田原の明るい未来を考える　住み続け、学び続けられるまちづくりと地域創生・人口減少問題　共に生きるまちづくりと史跡・学校の共生問題」をテーマに、250名の参加者を得て開催されました。また、第25回公開まちづくりシンポジウムは、９月19日(土)午後１時30分～５時、新名学園私学教育研究所初代所長・憲法学者の故星野安三郎先生を偲ぶ取り組みの一環としての位置づけのもと、これまでのシンポジウムで継続して追究して来た「史跡と共生」「住み続けられるまち」「学び続けられる学校」づくりの課題を、日本国憲法の「平和的生存権」と結んで捉え直すことを主題として開催。225名の参加者がありました。

いずれも、旭丘高校第１校地ホールを会場とし、新名学園・新名学園私学教育研究所・旭丘高校の教育を守る会が主催し、旭丘高校六者懇談会と旭丘高校生徒会が事務局を務めました。

プログラム

●第24回公開まちづくりシンポジウム

【開会あいさつ】
宇佐美ミサ子氏
（新名学園私学教育研究所共同研究者・「あり方懇」代表世話人）
※「あり方懇」の正式名称は「小田原のまちづくりと史跡・都市公園の緑の再生・城跡整備のあり方を考える会」です。

【特別報告－旭丘高校生徒会－】
『参加・自治・学び－学校づくり・まちづくりに参加して感じ、考えたこと－現在（いま）と未来を生きる高校生として－』

【パネラー発題】
Ⅰ.『少子高齢化と第２次生徒急減と向き合う学校づくり－子どもは「社会の宝」・「無償教育」の理念と運動を展望の指針として－』
三輪定宣氏
（新名学園私学教育研究所所長・千葉大学名誉教授）
Ⅱ.『地方消滅＝地方創生のもとでの小田原のまちづくりの課題』
平井太郎氏（弘前大学・社会学者）
Ⅲ.『史跡と学校、市民生活の共生、第３次現状変更許可と学校づくりの課題－憲法・文化財保護法の法理に照らして－』
山岸秀氏（亜細亜大学・法学者）

【フロアー発言と総括討議】
☆コーディネーター：水野浩（理事長・学校長）

●第25回公開まちづくりシンポジウム

【開会あいさつ】
三輪定宣氏
（新名学園私学教育研究所所長・千葉大学名誉教授）

【特別報告－旭丘高校生徒会（在校生と卒業生の報告）－】
Ⅰ.『戦後70年・被爆70年－学校づくり・まちづくりに参加して感じ、考えたこと－未来へのまなざし－いまを生きる高校生の意見表明－』
旭丘高校生徒会代表
Ⅱ.『いま地域に生きる私の願い～旭丘高校での高校生活との対話』
山口智寛さん（1999年度卒業生・元生徒会副会長）
Ⅲ.『お年寄りの命を守る仕事・沖縄の海を守る運動～私の生きるいま（現在）～』
相馬由里さん（1995年度卒業生・元生徒会長）

【メイン発題】
「戦後70年・被爆70年－ナガサキ修学旅行・日本国憲法の『平和的生存権』と結んで、学び続け・住み続けられる学校づくり・まちづくりの課題を考える」
山岸秀氏（私学教育研究所共同研究者・亜細亜大学）

【パネラー発題】
「いま、旭丘高校の教育に期待すること～私の昭和史と結んで～」
宇佐美ミサ子氏
（新名学園私学教育研究所共同研究者・「あり方懇」代表世話人）

【フロアー発言と総括討議】
☆コーディネーター：水野浩（理事長・学校長）

学園創立110周年記念

「資料集」編纂学習会と関連資料の整備について

新名学園旭丘高校は、2002年の創立100周年の節目の年に、めざすべき学校像として「地域立・市民立」の私学を定めました。つづいて2012年の創立110周年のときに教育像として「ヒトが人なる人間発達像－青年期発達像」を起こし、さらに学校像として新たに「公費（公営）私学」が付加されました。

学校の沿革と関わる記念誌の編纂については、上記の学校像・教育像をふまえて水野理事長・学校長を責任者とする「学園110周年史編纂委員会」が組織され、これまで数回にわたって「学習会」が持たれ、当面の実行課題である「110周年史資料集」（以下「資料集」）の作成に向けて諸準備がなされてきました。

今回作成の「資料集」は、2016年度に策定が予定されている学園の将来展望にかかる基本政策（21世紀プラン）と結び2022年の学園創立120周年を展望した学園政策の教訓的土台となるよう位置づけられています。

「資料集」の内容は、戦前の大日本帝国憲法・教育勅語と戦後の日本国憲法・教育基本法の下における日本の学校教育史と結び、加えて地域教育史・私学教育史と係ったものとなるよう考えられています。

「資料集」作成に向けた第２回学習会が本年９月21日（月・敬老の日）の午前10時から午後４時45分まで旭丘高校法人会議室で開かれました。これには校内理事と新名学園私学教育研究所の共同研究者：米田俊彦氏（お茶の水女子大学教授・学校制度史研究者）と宇佐美ミサ子氏（地域史・女性史研究者）、同窓会・PTAなど旭丘高校六者懇談会各パート代表、生徒会代表、法人事務局が参加し、尨大な資料について学習を深めました。

当日は、去る８月20日の第１回学習会の到達点と課題をふまえて討議が交わされ、明治30年代・本学園の草創期の小田原地域における小田原高女（後の城内高校）と旧制中学校（後の小田原高校）の設立等の中等教育機関の整備に関わり、新名学園の創立と神奈川県下の私学創設の意義について討議がなされ、明治・大正・昭和期（戦前）に私立学校が日本の公教育の体系の一つになったことの歴史的意味について今後探究する視点が明確にされました。

また、この間の資料編纂学習会を通し、次の過去・現在・未来の「三部作」の並行的編集作業を進めることが確認され、目下、その作業が行なわれています。

●過去（沿革）
－110周年史資料集づくり－2017年１月下旬刊行
●現在（学校づくり・教育づくりの現状と関わって）
－教育実践紀要づくり－2016年３月刊行
●未来（学園の将来構想と関わって）
－新名学園私学教育研究所紀要づくり－2016年１月下旬刊行

学校日誌

学校には年間を通じて数多くの行事やさまざまな取り組みがあります。ここでは生徒の学校参加・社会参加の視点で学校行事の一部を紹介します。

●入学式　生徒の学校参加

4月7日(火)、2015（平成27）年度の入学式が本校体育館で挙行されました。今年の入学式の大きな特徴は、姉妹校提携を結んでいる中国西安外国語大学附属外国語学校の生徒（中・高校生）10名と引率の副校長（崔平先生）と通訳を兼ねた女教師1名（索先生）が参列したことです。

式は普通科224名、総合学科215名、総計439名の新入生が入場したあと幕が開き、弓道部の生徒による礼射が行なわれ開式となりました。

水野理事長・学校長は式辞の中で中国の殷の時代の甲骨文字の「教」「育」などをパネル化したものを活用して「人間教育（発達教育）」、これが旭丘高校が一番力を入れて取り組んでいる基本的な教育理念であり、日常の教育活動と生徒の学校生活を貫く根っこの考え方であると述べました。

また、青年期の発達課題として三つの「せい」(生命・生活の「生」・ライフ)、男性・女性の「性・ジェンダー」、政治の「政・ポリティクス」をあげ、それとかかっての今日における18歳選挙権の課題や戦後70年の節目の年における課題をふまえて高校での「新しい学びと自治」・「クラブ活動と進路・進学」・「ナガサキ修学旅行」を通した平和学習、「足元からのグローバル教育の参加」の重要性を説いて新入生に向けて高校入学に対する祝福と励ましのメッセージを贈りました。

式終了後、各ホームルームごとに担任を中心に「ホームルームびらき」が行なわれ、家庭・学校・地域を結んだ「参加と共同」の新しい教育づくりがスタートしました。

●北條五代祭　生徒のまちづくり参加

5月3日(日)憲法記念日。爽やかな五月晴れの下、第51回小田原北條五代祭りが小田原城趾周辺を中心に盛大に開催されました。

例年にならい今年も本校生男女30名が生徒会顧問団の引率のもと「旭丘高校」の幟（のぼり）を立ててパレード隊に参加しました。男子15名は甲冑を身につけ五大北条氏直隊となり、女子15名は北條五代姫隊の三代北條氏康の正室・瑞渓院と側仕え人の衣装をまとって街中をねり歩き、観光客や見物人から大きな拍手をもらって地域の人びととの交流を深めました。「市民参加のまちづくり」・地域参加の貴重な体験学習でした。

●曽我の傘焼きまつり　生徒の地域参加

5月17日(日)、日本三大仇討ちの一つとして有名な「曽我兄弟の仇討ち」にちなんで第58回曽我の傘焼きまつりがJR御殿場線下曽我駅前の梅の里センターと神戸公園で開催されました。

本校からは相撲部(岸田顧問)と吹奏楽部（佐藤・奈良・市川(実)・市川（奈）顧問）が曽我兄弟・郎党他協力団体行列に参加し、開会式では水野理事長・学校長が挨拶しました。

今回、本校では「祈願傘」に姉妹校提携を結んでいる中国西安外国語大学附属西安外国語学校との関係にちなみ「日中青年永久（とわ）の友好。一衣帯水」と書かせていただき、これを奉納し、傘焼きをしてもらいました。

また、「ちびっこ相撲大会」では、真夏日のような熱さのなか、相撲部員が曽我兄弟の父・河津祐泰が考え出したという相撲四十八手の一つである「河津掛け」を実演披露し、土俵の周りにいる人びとを湧かせ、地域との交流をいっそう深めることができました。

●体育祭　生徒の学校参加

5月21日(木)、クローバー祭・体育の部（体育祭）が小田原市営城山競技場で開催されました。

当日はいつ雨が落ちてくるかわからないような不安定な天候でしたが、おおむね計画通り進めることができました。

PTAの役員・文化体育委員会の皆様お疲れさまでした。

開会にあたり学校長は①フェアプレー②健康・安全第一③全員参加・全員協力を呼びかけました。生徒たちは、これに応え全員無事にトラブルもなく体育祭を盛り上げました。

今年度生徒会は次の三つの基本方針をもって体育祭に参加しています。①HR自治・学年集団自治・全校生徒自治集団づくりの節目として取り組むこと、②体育祭の取り組みを通して各学年の学年委員、各HRの班長会のリーダーを育てること、③各学年・各HRの現状分析に基づき、学年・HRの抱える課題と結びついて取り組むことを掲げ、事前の書準備と当日の活動を展開し、学校参加と自治の力を高めています。

●山王川・久野川一斉清掃　生徒の地域参加

6月6日(土)午前9時～12時、「山王川・久野川を美しくする会」主催の小田原市（行政）・地域の企業や生活者ぐるみの一斉清掃活動が行なわれました。

例年にならい今年も本校として次の三つの目的をもってこれに参加し、「地域立・市民立」の私学の創造という学園の方針に添い、生徒会、第2校地有志など約70名がこれに取り組み、参加しました。

目的①学校として地域との共同を深める機会とする、②生徒会が学校参加・地域参加（社会参加）を通して自治と学びを発展させてきた活動の一環とする、③久野川上流の坊所川に接する環境で教育活動を行なっている第2校地総合学科として学校づくりと地域づくりを結びつける視点でこれに参加する。特に、生徒たちが地域環境（自然環境）の問題や学校と地域の関係について学ぶ機会とする。

こうした取り組みを通して生徒たちは環境問題への見方・考え方を学び、地域の人びとの共同も深めています。今年も清掃活動で集積された草や枯葉をもとにした堆肥が一部学校にも配分され学校農園に活用することができました。

●夏季「少年相撲教室」

スポーツ・地域交流

ちびっ子と大関照の富士との申し合わせ

8月28日（水）、午後3時から5時まで本校第2校地3号棟の相撲場で本学園主催の夏季「少年相撲教室」が開催されました。

地域からは相撲教室に参加した少年・幼児とその家族、国会、県会、市会の各議員と地域の行政・相撲関係者などの来賓合わせて約150名、学園関係者（学園・同窓会・PTA・父母懇・教職員・生徒会代表）約50名、全体で200名をこえる方々が集いました。

この行事は相撲部の日頃の地域提携の活動、例えば南足柄市大口堤の福澤神社例祭や真鶴町岩の龍宮祭、小田原市曽我の傘焼きまつりで行なわれる奉納相撲への協力・参加や放課後夜遅くまでの子どもたちと相撲部員の稽古の中から生み出されてきた初めての取り組みです。その目的の一つは、国技の相撲を通して「心・技・体」を兼ね備えた心身の健全な成長発達を培うことであります。これに角界の伊勢ヶ浜親方（第63代横綱・旭富士）が賛同し、今をときめく人気力士の照ノ富士ら現役の力士が参加され、ちびっ子たちと本校の日体大などに進学している先輩や在校生部員に稽古をつける場面もあり、会場は大いに湧きました。

その後、「ちゃんこ鍋」・サイン会・握手会などがあり、盛会のうちに幕を閉じました。

挨拶に立った水野理事長・学校長は、「この相撲場の鉄砲柱（調体柱）は本日お見えの三竹の林業家・杉山精一さんから寄贈されたもので、このような地域とのつながりを大切にして、夏の風物詩ともいうべきものとなるように相撲教室を継続していきたい」と抱負を述べ、参会者の共感をよびました。

●PTS懇談会

共同の学校づくり

10月10日（土）、PTS懇談会が旭丘ホールと体育館を学年別保護者の全体集会場、教室を各ホームルームの懇談会会場として開催されました。

このPTSは旭丘高校独自の用語で英語の複数名詞Parents, Teachers, Studentsの頭文字をとったもので、内容はいわゆる個別的な三者面談とちがって父母と教師・生徒の組織的集団的な教育懇談会であります。

この三者による懇談会は、本校の「参加と共同」による学校づくりの実践の歴史のなかから生み出されたものです。そのねらいは、父母・教師・生徒の三者が6月のホームルーム懇談会後の生徒のホームルーム活動を通した意見表明や高校生活の具体的な姿に触れ合い、彼ら・彼女らの発達課題を見出し、ホームルーム担任・父母（保護者）でこれを共有し、さらなる子育ての共同をつくり出していこうとするところにあります。

各学年の教師集団は、それぞれ父母の参加率を70%としてこれに取り組み、1年は「交わりと自治」、2年は「平和と人権」、3年は「進路と生き方」の基本課題をふまえて意見交換・共同討議を行ないました。

特に秋は家庭の教育費負担の軽減に直接関係する全国私学助成署名運動・公費助成運動の取り組みの時期であり、これに参加している父母は、“子どもは社会の宝なのだから、みんなでお金（つまり税金）の使い方、国・県の予算のあり方を考え、みんなで力を合わせて子ども達を育てよう”と考え、子どもの見方も「私の子ども」という個人的な視点から「私たちの子どもたち」という集団的・社会的視野へと広がっています。

PTS懇談会は、こうした父母提携・共同の学校づくりの場としてたいへん有効な教育力を発揮しています。

生徒会より クラブ紹介 弓道部

弓道部は月・木・金の週3回、体育館1階で練習しています。部員は少なく、3年生の引退後は1年生5人、2年生3人で活動しています。人数は少ないですが、2年生は春の大会に向け、1年生は基礎固めを中心に頑張っています。「射法八節」という教えに従って、基礎を大事にするよう心がけています。ここ5年近く1回戦以上勝ち上がったことがないので、今は1回戦を勝ち抜くことを目標としています。

練習メニューは主に素引きから始まり、巻藁に矢を射る練習が中心です。一本一本集中し、大切に射るように心がけています。長期の休みには城内弓道場での練習があります。いつもの練習に加え、立射といって約30メートル離れた的に射る練習をします。道場では実戦的な練習ができるので、とても大事にしなければいけない時間だと思います。最初は的の手前で落ちてしまいます。矢が的に当たるようになると本当に嬉しいです。

弓道は武道なので礼を大切にします。矢を射るばかりでなく、しっかり礼儀を学ぶところから始まると思います。練習も礼に始まり礼に終わります。最初は正座も足がしびれましたが、今は慣れてきました。弓道はほとんどの人が初心者だと思うので、初めから上手い人はいないし、日々の練習を大切にすれば力はついてきます。本気でやりたいと思った人はぜひ入ってほしいです。少しでも興味がある人は仮入部にきてください。

（主将：2UE大村大輔）

顧問の声

創部45年の歴史ある部です。弓道にはいくつか大事な言葉がありますが、本校では「正射必中」を基本に据えて日々の練習に励んでいます。あたりに目が眩んで型をおろそかにしてはいけない、基本ができていれば自ずから矢もあたるという考えです。普段体育館で練習をしているので、城内の弓道場での立射は貴重な時間です。大会でいい射ができたと思えるよう、基本を大事にしていきたいです。（古和田あずさ）

生徒の活躍

●相撲部

平成27年４月29日
関東大会神奈川県予選　団体戦準優勝
個人戦３位　１ＵＡ林怜哉
　　５位　２－４矢野雄一郎

平成27年６月12日～14日
関東大会出場（団体戦・個人戦）

平成27年９月26日～30日
第70回国民体育大会（和歌山県）
出場　１ＵＡ　林怜哉

平成27年10月25日
秋季関東相撲大会出場（団体戦・個人戦）
ベスト16入賞

●陸上部
2015年５月
神奈川県高等学校総合体育大会出場
１ＵＡ　今井湖愛
　　女子砲丸投げ・円盤投げ
２ＵＢ　金子武尊
　　男子砲丸投げ・円盤投げ
３ＵＣ　赤津卓美
　　男子砲丸投げ・円盤投げ

2015年９月
神奈川県高等学校新人陸上競技大会出場
１ＵＡ　今井湖愛
　　女子砲丸投げ・円盤投げ
２ＵＢ　金子武尊
　　男子砲丸投げ・円盤投げ
　　（決勝７位入賞）
２ＵＣ　大見颯　　男子砲丸投げ
２ＵＣ　角田尚輝　男子100m
男子４×100mリレー
２ＵＣ　角田尚輝・２ＵＥ　杉山和輝
１－３　森本　陸・１－５　吉原秀晃

●卓球部
神奈川県高等学校新人卓球大会
西湘地区予選会（2015. 8. 17）
男子シングルス
県大会出場　２ＵＣ　三瓶鞠弥
男子ダブルス
県大会出場
２ＵＣ　三瓶鞠弥・１Ａ　相原大樹ペア

平成27年度県高校総体卓球競技の部・
県予選大会（2015. 5. 16）
男子シングルス
３回戦進出　２ＵＣ　三瓶鞠弥

●野球部
2015年春季大会地区予選大会
Ａブロック３位予選敗退（１勝２敗）
ＶＳ　星槎国際湘南高校６対５
　（９回サヨナラ負け）
ＶＳ　立花学園高校　８対３敗戦
ＶＳ　平塚湘風高校　６対５勝利

●バスケットボール部
関東高等学校バスケットボール大会
西湘地区予選会出場
学校総合体育大会予選会出場
西湘地区夏季大会出場
神奈川県新人戦西支部予選会出場

●書道
公式書写検定
一級本試験合格　３ＵＡ　水上ちひろ

第66回小田原市民書道展
小田原市教育委員会賞
　３ＵＡ　飯塚月
小田原市書道連盟会長賞
　３ＵＡ　水上ちひろ
佳作　３Ｂ　細川愛弥
褒賞　２－２　宝蔵寺友海
　２Ａ　梅林栞

神奈川県高等学校教育書道展
奨励賞　３ＵＡ　飯塚月
　２Ａ　梅林栞
　２Ａ　鈴木梨奈

第24回国際高校生選抜書道展
入選　３ＵＡ　飯塚月
　３ＵＡ　水上ちひろ
　２Ａ　梅林栞

●演劇部
６月20日（土）
西湘地区春季高校演劇大会　出場
題目：「引きこもりパニック」

10月３日（土）～４日（日）
西湘地区秋季高校演劇大会
題目「笛男」　審査員特別賞受賞

●吹奏楽部
第16回西湘吹奏楽
コンクールB編成の部　銀賞

●商業科
第103回日本語ワープロ検定
（2015年７月５日）
２級　２ＵＣ　倉本皓史
　３ＵＢ　井上拓馬
準２級　３ＵＤ　鈴木大誠
２級　２ＵＣ　太田智香
　３－１　菊島信隆
　３－３　安齋潮音
　３ＵＡ　飯塚月
　３ＵＢ　三上亜季
　３ＵＤ　村松海太朗
４級　２Ｂ　岩崎翔太

第53回文書デザイン検定試験
（2015年７月５日）
第２級　３ＵＡ　飯塚月
　３ＵＡ　岩城星亜
　３ＵＤ　佐藤瞳
　３Ｂ　小室大樹
第３級　３ＵＢ　片野夏海
　３ＵＢ　益子優斗
　３ＵＢ　吉田萌実
　３ＵＣ　横山もな
　３ＵＣ　吉永良太
　３ＵＤ　峰　翔
　３ＵＤ　村松海太朗
　３ＵＥ　小澤愛未

第101回情報処理技能検定試験（表計算）
（2015年７月12日）
第３級　２－１　志村海斗
　３ＵＡ　岩城星亜
　３ＵＢ　益子優斗
　３ＵＤ　池田慎伍
　３ＵＥ　脇田颯

第179回簿記能力検定（2015年７月12日）
１級工業簿記　３ＵＤ　西島佑
２級　３ＵＢ　高橋沙季
３級　２ＵＢ　浅田祐太
　３ＵＢ　井上拓馬
　３ＵＢ　河原七紀
　３ＵＢ　片野夏海
　３ＵＤ　村松海太朗
４級　３ＵＢ　吉田萌実

第104回日本語ワープロ検定試験
（2015年10月11日）
第２級　３ＵＣ　横山もな
　３ＵＥ　内田啓介
第３級　１－５　勝俣龍裕
　１－５　須賀夏未
　２ＵＢ　後藤美奈
　３ＵＡ　増田沙里奈

第102回情報処理技能検定試験（表計算）
（2015年10月11日）
第２級　３ＵＥ　内田啓介

第54回
文書デザイン検定試験
（2015年10月11日）
第１級　３ＵＤ　西島佑
第２級　３ＵＣ　横山もな

●公益信託
小田原ロータリークラブ奨学基金
平成27年度奨学生　３ＵＡ　永長大樹
　３ＵＡ　北野絵里花

●小田原ライオンズクラブ主催
第31回イングリッシュ・スピーチ・コンテスト
出場　１年ＵＡ組　鈴木愛美
　１年４組　松本健太

●漢字検定
６月に実施された第一回漢字検定に、53人もの受験者が集まりました。多くの受験者が継続して検定に挑戦している生徒であり、一つの目標に向かい続ける姿勢が見て取れます。
また、今年度からクリエイティブクラスの生徒全員で検定受験に挑戦する取り組みが始まります。検定という一つの機会を通じて知識の習得に限らず、有意義な学びが生まれることを期待しています。

国際連携教育に係る授業・カリキュラムと学びが進化・充実

■毎年スピーチ・コンテストに挑戦

旭丘高校の生徒がこの間、地元の小田原ライオンズクラブが主催する「イングリッシュスピーチ・コンテスト」に毎年挑戦しています。一昨年「Beyond Encounters（出会いの先に）」で会長賞を受賞した永長大樹くん〔現在３年UA組〕、昨年小田原市長賞を受賞した池淵健二郎くん〔現在３年４組〕に続き、今年は１年４組の松本健太くん〔スピーチは「A Treasure from My Mother」（母からもらった宝物）〕と１年UA組の鈴木愛美さん〔スピーチは「My hometown, Hakone」（私の町、箱根）〕がコンテストに参加しました。

入賞には至りませんでしたが、審査員や参観した皆さんからは、「毎年の旭丘高校の生徒のスピーチは自分たちの生きる現実や課題と結んで自己表現をする優れたものになっている」との旨の評価をもらいました。

〈松本健太くんのスピーチから〉

●Thanks to my handicap, I am mentally trained and I grew stronger and bigger. This left hand is a treasure from my mother. With a great care of my left hand as everl want to hve my life giving gratitude to many people who supported me.

●ハンディキャップのお陰で、私は心が強くなり、強く大きく成長しました。この左手は私か母から貰った宝物です。これからももっとこの左手を大切にして、たくさんの人に感謝をしながら生きていきたいと思います。

〈鈴木愛美さんのスピーチから〉

●If many tourists come and see this place again, efforts of Hakone's workers including my father will be rewarded. I hope my hometown will get energy. Come over here and glow the view with your own eyes and you will see that my town is not as dangerous as you think.

●多くの観光客がまた箱根にやってくれば、私の父を含めた箱根の労働者の努力が報われるでしょう。箱根がにぎやかになる日を楽しみにしています。ここに来て自分の目で見て確認してほしいです。みんなが思っているほど箱根は危険ではないことが分かるでしょう。

■国際化に対応した選択講座が充実

旭丘高校の選択科目には、現在「中国語初級Ⅰ・Ⅱ」「初級韓国語」「初級イタリア語」「中国のことばと文化Ⅰ・Ⅱ」「中国文化Ⅰ・Ⅱ」「異文化理解Ⅰ・Ⅱ」が開講されるとともに今後更に国際化に対応したカリキュラムの進化・充実が予定されています。

〈「初級イタリア語」講座の様子ー講座担当者：山宮麗奈先生ー〉

１学期はイタリアつてどこ？イタリア語って例えばどんな言葉があるの？という基本的なところから授業を始めました。その中でイタリアと日本の文化を比較したり、挨拶や簡単な会話についても学びました。イタリアの映画の観賞では地中海の美しい景色に感動したり知っている俳優さんたちが話すナチュラルなイタリア語にビックリしている生徒たちがたくさんいました。

今後は少し発展した文法や会話の練習をしていく予定です。また、イタリアの食文化にももっと興味を持ってもらいたいので、イタリアの家庭料理を作れたらと思い調理実習も計画しています。

〈王菲（わん・ふぇい）先生の「中国語初級」を受講して〉

今年３月の訪中のとき、西安外国語学校日本語学科の生徒の皆さんが日本語で話しかけてくれたことで、とても気持ちが楽になり交流が出来ました。なのに中国の生徒の皆さんが４月に来校した時には中国語で答えてあげることが出来なくて申し訳ない思いでいっぱいでした。

そんな気持ちから今年は中国語の選択講座に挑戦しました。王先生はとても明るく優しい先生で、身近な生活の中から題材をとって教えてくれるので分かりやすいし、語学だけでなく中国の文化のことや中国と日本のつながりのことなども教えてくれようとする思いが伝わって来ます。ちょっとした日常会話は出来るようになり、授業が終わると友だちと中国語で会話して遊んだりします。大学に進学してからも中国語の学習を続けて行きたいなと思っています。

１年の和田君（サッカー）、林君（相撲）の２人、国体で奮闘！

●サッカー

小田原市酒匂中学出身で普通科１年の和田響稀君はJリーグ湘南ベルマーレユースに所属している選手で、国体ではサッカー少年男子チームのフォワードを務めています。試合前、「フォワードなので得点という形で結果を出し、貢献したい」と語っていたとおり本番の準決勝の兵庫戦で貴重な追加点となるゴールを決め、神奈川県チームの決勝進出とV２に貢献しました。拍手です！

和田君は「自分がベルマーレでやってきたことが国体メンバー入りにつながったので、チームに感謝したい」と述べ、今後は旭丘高校での学校生活と両立させながら、更に前へ進みたいと抱負を語ってくれました。

●相撲

相撲部の林怜哉君は海老名市海西中学出身で総合学科１年。旭丘高校の相撲部の先輩で国体選手はこれまでもいましたが、１年生の選手は初めてです。初の快挙です。

林君は１年生ながら神奈川チームの副将を任され、「個人戦出場」を目標に予選に励みました。残念ながら、決勝トーナメントには進めませんでした。

林君は来年の国体再挑戦に向けて毎日放課後、第２校地相撲場で顧問の岸田先生の指導のもと稽古に汗を流しています。

頑張れ、林君！

ヒップホップダンス １年生の田中沙来（さら）さん世界一の快挙！

今年８月アメリカで行なわれたダンスの世界大会「ワールドヒップホップダンスチャンピオンシップ」で総合学科１年の田中沙来さんがチームリーターを務める「KANA－BOON」が見事金メダルを獲得しました。

田中さんは横浜市飯島中学の出身で、３歳の頃からダンススタジオに通い、今も学校の帰りと土日にほぼ休みなく練習に励み、多い日には１日４時間も練習をこなしているといいます。

KANA－BOONは田中さんを除き全員が中学生で、田中さんの話では「皆個性が強く、意見が異なる」チームだそうですが、今回はチーム唯一の男子が考案した振付をメンバー全員で意見を出し合って練り上げました。そして４月の日本大会で優勝した勢いをかって世界大会に臨み、世界50カ国から出場した61チームの頂点に立ちました。

KANA－BOON万歳！世界大会優勝おめでとうございます。

田中さんは「今年は最年長で大変なこともあったけれど、優勝できてうれしかった。来年は世界大会から出られるので２連覇したい。これからも旭丘高校のホームルーム活動や学習活動とダンスの練習を両立させながら頑張っていきたい」と抱負を語ってくれました。

「書道部が第66回小田原市民書道展で特別賞を受賞」

書道部は10月に開催されました第66回小田原市民書道展に出品し、小田原市教育委員会賞３年ＵＡ組飯塚月さん、小田原市書道連盟会長賞３年ＵＡ組水上ちひろさん、佳作３年Ｂ組細川愛弥さん、褒賞梅林栞さんの４名の生徒が特別賞を頂くことが出来ました。

この書道展は、一般市民を含んだ大会の為、高校生が上位を受賞したことは快挙と言っても過言ではありません。また、水上さんと細川さんの２名は書道部の代表として、今年の３月には、中国西安外国語大学附属外国語学校・安陽第37中学校との国際交流にも参加して、中国の歴史や文化なども学んできました。

３年の西島くんが簿記・コンピュータの優秀な資格を取得

３年ＵＤ組の西島佑くんが７月12日（日）に行われた全国経理教育協会主催・文部科学省後援の「簿記能力検定試験」で「１級工業簿記」に合格したのに続き、10月11日（日）に行われた日本情報処理検定協会主催・文部科学省後援の第54回文書デザイン検定試験で１級に合格しました。簿記部でもある西島くんは、11月22日には「１級会計」の試験にも挑戦します。西島くんは、「中学時代に不登校気味で、勉強に対して興味を持てなくなっていました。簿記（※総合学科１年次に共通履修科目として３単位設定）は同じスタートラインで始められるもので、自分にも頑張れるものだと考えました。興味と自信が持てるようになって２・３年でも『資格の簿記』『上級簿記』等の総合選択・自由選択科目を受講し、検定を受験しました。合格したことが自分の興味を一層掻き立てました。それが自分の進路に結びつくものとなって、社会人になった時に簿記は必要で、自分の会社がどうなのかを知っておくことができるものになりました。お世話になった商業科の先生方には本当に感謝しています」と語ってくれました。卒業後は、経理の国家試験取得を目指し、働きながら専修大学二部商学部で学習を続けます。合格おめでとうございます。

学校づくりを支える人々ー㉔

今回はフレッシュな笑顔がまぶしい平成27年度採用の新任の先生方にご登場いただきました。

❶趣味　❷特技　❸高校生の頃、燃えていたことを教えて下さい。　❹高校の修学旅行はどこに行きましたか。
❺笑える失敗談・幸せだなぁと思った瞬間などを教えて下さい。　❻先生になろうと思った動機は？
❼生徒へのメッセージをお願いします。

吉田 翔太郎
総合技術科

❶鉄道旅行　野球観戦　釣り
❷ブラインドタッチ（パソコンに詳しいわけではない）
❸勉強が嫌いで、何にも燃えない生徒でした。でも、行きたい大学が見つかってからは、自分でも驚くほど勉強に燃えました。
❹沖縄へ行ってきました。
❺絵しりとりで、みかんを描画。
❻色々ありますが、まとめると先生という仕事の裏側が気になったからでしょうか。
❼高校では、毎日何かしら新しい発見があるはずです。大切に過ごしてください。

黒澤 真奈
英語科

❶絵を描くこと　バックパック旅行
❸某遊園地でのアルバイト
❹オーストラリア
❺失敗談：運動が得意だった小学生の時、気合いが入りすぎで跳び箱をとびこえてしまい、顔面からマットに着地したこと。
幸せな時：ラーメンを食べている時。
❻海外で「恵まれない」と言われている子ども達と関わる活動をしていた際、本当の教育とは何か、ということについて深く考えたこと。
❼どこに行くか、ではなく、そこで何をするか、を大切にしてほしいと思います。できる限り「やらなかった後悔」のない高校生活を送ってください。

増元 響
数学科

❶卓球　育児
❸勉強が楽しくて、勉強に燃えていました。
❹北海道
❺幸せは常に感じています。誰かと「楽しさを共有できたとき」特に実感します。
❻自分が教えることによって「分かった」と言ってもらえることが嬉しいのと、自分に向いていると思ったからです。
❼人と接するとき、家族でも友達でも先生でも、少しでも「相手の立場」にたって考えることができる人になって下さい。それが何より大切なことだと思います。

鈴木 龍之介
保健体育科

❶スポーツ観戦
❷野球
❸部活（野球）
❹長崎
❺目標であった教師になれた時、幸せだなぁと感じました。
❻スポーツの楽しさを伝えたいと思い教師を目指しました。
❼仲間を大切に何事にもチャレンジして下さい。

山宮 麗奈
英語・イタリア語

❶体を動かすこと
❷バトントワリング　新体操
❸バトントワリングです。毎日バトンばかりやっていました。部活動は、中学・高校と6年間剣道と書道をやっていました。
❹修学旅行は行っていません。その代わり語学研修でカナダに行きました。
❺卒業旅行はディズニーリゾートでした。
卒業式の日をなぜか勘違いしてて、高校の卒業式に遅刻したこと。おまけに答辞だったのに原稿を忘れ、冷や汗タラタラでアドリブでスピーチ…今ではその答辞は伝説となっているようです。（笑）
❻病気がちで院内学級に通っていたことがあります。その時の先生がとても素敵な先生で憧れました。同時に学校へ行けることがこんなにも幸せなことなんだと実感したからです。
❼「If you can dream it, you can do it!! ～夢を見ることができるなら、それは実現できるんだ!! ～」ディズニーランドの創設者であるウオルト・ディズニーの言葉です。皆さんの前には無限の可能性が広がっています。たくさんの出会いに感謝して、夢に向かって自分らしく、１つ１つ乗り越えていきましょう☆You can do it !!

片岡 素幸
国語・韓国語

❶デパ地下でお高いチョコを眺めること
❸高校の時、報局の活動です。実際に新聞社で活動させてもらっていました。
❹グアムに行きました。
❺京都で電車に乗った時、周りがみなさん観光にいらした方で、楽しそうな、幸せそうな表情に囲まれて、なんとなく幸せでした。
❻高校にすごく個性的でとても素敵な先生が多く、憧れたことがきっかけの一つです。
❼遠くの目標を見つめつつ、近くの小さな幸せも楽しんでください。

● 教職員人事異動

退任★お世話になりありがとうございました。
髙橋　継男様（嘱託）

新任★どうぞよろしくお願いいたします。
片岡　素幸先生（国語）
黒澤　真奈先生（英語）
鈴木龍之介先生（体育）
山宮　麗奈先生（英語）
吉田翔太郎先生（総合技術）
増元　　響先生（数学）
大橋里沙子先生（総合技術）
後藤さとみ先生（芸術）
高木　英子先生（商業）
山口葉二子先生（商業）
王　菲　　先生（総合学習）
森田　京子先生（家庭）
星名久美子先生（総合学習）
青木　　緑先生（司書）
木村　友美　様（事務）
長谷川　健一様（嘱託）

● 教職員慶事

結婚♥ご結婚おめでとうございます。
大石　　洋先生

お誕生★お子様のお誕生おめでとうございます。
宇都宮明子先生（朱里ちゃん）

同窓会だより

「建学の精神」の継承発展について－感謝をこめて

旭丘高等学校同窓会 会長　岩田　公子

学報クローバー「第27号」発行おめでとうございます。

「悪しきとて　ただ一筋に捨つるなよ　渋柿を見よ　甘干となる」。

私が新名学園旭丘高等学校に入学した時、基礎技術の和裁・洋裁・手芸・編物、そして良妻賢母をめざした創立者・新名百刀先生の教育に出会い（当時、百刀先生のご息女新名道子先生が校長先生でございました）、その教えは今でも私の心の奥に残っている宝であります。昭和17年に百刀先生がお亡くなりになった時は、私が生まれた年であります。それからもう七十三年になります事は、ひとしおご縁が深く感じられる思いでございます。

新名学園旭丘高校では毎年九月第二月曜日を「建学の精神を想う日」と定めていますが、同窓会としてもこの日、創立者で初代校長の新名百刀先生の墓参の日と決めまして、先生のご遺徳を偲び、建学の精神の継承をお誓いしています。今年は水野理事長・校長先生はじめ同窓会の方々が菩提寺の光円寺にて回向を行なっております。

また、本年度の墓参には、生徒会から生徒会長と役員（総務）３名（女子生徒２名、男子生徒１名）と生徒会顧問の先生が参加してくださいました。私達同窓会一同大変嬉しく晴天のなか生花を捧げ、お線香を手向けました。その時、男子生徒が「どの様にお参りするのか教えて下さい」との事で、お参りの作法を手ほどきしましたら、女子生徒たちも同じように快くお参りして下さり、その場の雰囲気もたいへんなごやかでした。先輩の私達同窓会としても、後輩の生徒達が頼もしく感じられ、亡き百刀先生もお喜びされていらっしゃるのではないかと思う墓参でした。

同窓会としては、この行事を大切にし、後輩のお手本になるよう凛として同窓会を守って行きたいと思っております。

「教育は種子まきである」

新名百刀先生「語録」にありますように。

PTAだより

PTA会長　青木敏江

早いもので今年も半年が過ぎました。これまでの活動報告をいたします。

４月、入学式後、各委員会新しいメンバーを求めて教室の方へお手伝い。

５月、体育祭では文化体育祭委員会の皆さんが頑張っている子供たちに麦茶の提供とパトロールをして下さいました。広報委員会の皆さんは生徒の近くで競技の姿を写真に収めて下さいました。そしてPTA種目にも先生方と一緒に多くの方が参加して下さいました。

６月、HR懇談会では担任の先生と共に学年委員会の皆さんがお茶の準備やミニ懇の企画など力を発揮していただきました。

会員教養委員会主催の野草教室では強羅公園へ登山電車で行きました。草花の名前の由来などを教えて頂きながら楽しく参加してきました。

父母懇談会主催の関東ブロック交流集会にはHR懇談会終了後バスで茨城・水戸へ向かいました。交流集会・各分科会で学んだ事を帰りのバスの中で発表したりしました。一体感のある良い勉強会になりました。

７月、私学助成・公費助成の署名スタート集会が行なわれ、私学振興助成法が成立して40年目の節目の年と云う事で、学校の私学研究所の三輪先生のお話を聞かせていただきました。

地区委員会主催の夏の地域教育懇談会が藤沢・厚木・茅ヶ崎・小田原の４ヶ所で行われ、多くの方が参加してくださいました。

８月、社会見学はスカイツリーと書道博物館の見学。築地での昼食と楽しい社会見学でした。

平和の灯・復興の灯を繋げる高校生自転車ピースリレーが本校に！小田原空襲を経験された語り部の飯田耀子さんのお話は、子供たちだけではなく私たち親も心に残るものになりました。

10月、PTS終了後、全国父母懇交流集会@新潟・長岡へ参加してきました。

PTAの皆さんの理解と協力に感謝します。

父母懇だより

今年度も「一人ぼっちの父母・先生をつくらない！」「私学助成署名運動で子どもたちの学ぶ権利を守ろう！」の２大スローガンのもと、活動を進めてきました。

５月の総会で新しい役員を選出し「今年は父母懇の原点的な活動の子育て懇談会を旺盛に開催しよう」と意思確認しました。６月に茨城県水戸で行われた関東ブロック父母懇交流集会には、父母懇支部から５名（旭丘全体で35名）が参加し、関東各県の父母懇運動を学び・交流してきました。また、７月末に岩手県花巻温泉でおこなわれた全国私学夏季研究集会（全私研）に２名（旭丘全体で26名）参加し、「父母・地域との共同」の分科会に参加してきました。10月には新潟県長岡市で行われた全国父母懇交流集会に７名（旭丘全体で24名）参加し、役員会として「子育て懇談会」についてレポート発表を行いました。

そして今年度は秋に３会場（茅ヶ崎・小田原・海老名）にて子育て懇談会を開催しました。会を重ねるごとに役員主体で会の宣伝や企画、実践することができるようになり、父母懇旭丘支部の組織的成長を感じています。子育て懇談会は誰でもどんな立場の人でも悩みや思いを話せるアットホームな懇談会を目指しています。参加者からは「親も教師も弱音や悩みをまわりに出せないと一人でつらくなっていくと思います。そう考えるとこのような場が必要だと思います。」「話を聞いてもらって気持ちが楽になりました。聞いて吸収できるものがあればと参加しましたが良かったです」「先生も答えを必ず持っているわけではなく悩みや問題があった時に先生・生徒・保護者と共に考え成長してゆければいいのではと感じました」などの感想が寄せられ、一人ぼっちの父母・先生をつくらないという目標通りの懇談会が行えたと感じています。

私学助成署名運動として、今年も卒業生会員に署名簿を送付し、現在のところ100枚以上の署名が返送されています。今後行われる私学の集いや銀座パレードなどの私学助成運動にも父母懇旭丘支部として積極的に参加を広げていきます。

これからも旭丘の子どもたちと学校のために、目標をもって活動を続けていきたいと思います。

神奈川父母懇談会　旭丘支部事務局

お元気ですか？ vol.20

退職された先生方のご様子をお伝えするシリーズです

今回、石川先生にはご無理を言って「お元気ですか？」のシリーズ2度目の登場をお願いしました。

先生は山梨大学ご卒業の後、本校の理科・数学科の教師として今は亡き野島通紀先生とタイアップして先進的な教育実践をなされました。定年退職後は第2校地総合学習の特別講師として「バイオと生活」の講座を開き、〈生産・労働・生活と教育〉を結びつけたユニークな総合学習を創り出しました。

現在は学園評議員として新しい学校づくりに参画しておられます。

石川正則先生

皆さんご無沙汰しています。お元気ですか。

ノーベル医学・生理学賞受賞の大村智先生のこと

この原稿依頼を受けた時、私は大村先生のことで、大学の同級生や先輩とメールで朝から晩まで大騒ぎしていました。というのは、大村先生は山梨大学の卒業生で、地方の小さな大学で六〇年代前半の貧しい時代をともに過ごした先輩の一人でした。私は醗酵生産学科の学生で、学生寮で生活していましたが、空腹になると寮の目の前にあった醗酵研究所に仲間と出かけ、研究所で作る夕食のお裾分けに預かり、飢えをしのいだことが何度もありました。そのとき、ご飯や味噌汁を作ってくれていたのが大村先生で、いわば一宿一飯の恩義を受けたことがあったわけです。テレビで大村先生が東京の定時制高校で先生をしていられたことを知り、私も都立の教師になることになっていたので感慨深く当時のことを思い出しました。私は「バイオと生活」という講座でイベルメクチンの話を生徒にしていたのですが、それが恩人の大村先生の発見したものだということは全く知りませんでした。学びの浅さを思い知らされることになった一事になりました。恥ずかしい限りです。

野島先生の逝去

昨年理科の野島通紀先生が亡くなられました。今年の新盆で、笑顔で額縁におさまっている先生を見て「もういないんだな」と思い知らされました。

先生とは五十一年間も旭丘で一緒に過ごし、夜空を見上げればいつも北極星を見ることができるように、決まったところで、不動で、同じ輝きを放って、いつも居てくれると信じ切っていました。

野島先生のことを一つだけお話しさせてください。一緒に旭丘の教師になって三年目だったと思いますが、当時発行されていた理科の教科書を全て持って、学校の宿泊研修所・大平台に泊まり込んで教科書分析に取り組んだことがありました。三日三晩缶詰になって野島先生が最後につぶやいた言葉は今も鮮明に覚えています。「文部省は理科と言っていて、科学とは言わないんだよな。俺たちが教えなければならないのは科学だよ」「自然科学を教えないと子供たちの生きる力にはならないよ」

野島先生はその後一貫してその言葉通りの実践をされ、私の作った教材のプリントを見ると「科学になって来たね」というのが褒め言葉でした。私も野島先生の教材を見ると同じ言葉で評価をしました。日本の理科教育は、あの頃よりさらに悪くなって、受験競争のゲームに成り下がり？退廃しきっている？と思う時が今も度々あります。先の見えない今の世の中で、頼りになるのは、自然や社会を支配している法則を見抜く科学の眼を子供たちが身につけることだと心底思います。

卒業生の地域での活躍

現役を退いて三年。それまでは学校で夜遅くまで過ごし、家には寝るために帰るような生活でしたが、今は地域にどっぷりつかって暮らすようになりました。自治会の役員をやったり、桜まつりの舞台でカラオケを歌ったり、俳句を作って句会に出たり、頼まれて地域の子供の勉強をみたり、毎日することが一杯で暇な日は一日もありません。

地域に出ると旭丘の卒業生に沢山出会います。カラオケのチャンピオン、よく行く中華料理屋の奥さん、いつも流行っている肉屋のおかみさん、神奈川県でも有名な豆腐屋さんの女主人、書道の先生、元市会議員、三味線の先生、旅館の女将さん、スーパーに行けば店員さん、農協に行くと事務員さん、郵便局に行くと局長の奥さん、お寺に行くと住職の奥さん、葬式に行くと受付で若い卒業生に、自治会の老人ホーム見学に行けばそこにも卒業生が。その中で、一番頭が下がるのは、大きな農家や老舗の女主人として、何代も続く家を支えている多くの卒業生の存在です。社会の根っこを支えている多くの卒業生には敬意を表します。

学園のさらなる発展を

最近耳にしたことで、レストランで夏休みに相撲部の練習を見学したという人がいました。「将来関取が出るかもしれない」という話でした。近くのおばあちゃんの話で「孫が旭丘を卒業して、友達との絆の強さにおどろいた」という話を聞きました。「いい学校ですね」というわけです。水野先生、体に気をつけて学園を頼みます。

学債・寄付金運動について―お礼とお願い

新名学園旭丘高等学校　理事長・学校長　水野　浩

日頃より本学園へのご理解・ご支援に心より感謝申し上げます。お陰様で学園は来る2020年には創立百二十周年を迎えることになりますが、それに向けて理事会は「新総合計画」を策定しその推進に努めております。つきましては改めて皆様に学債・寄付金へのご協力をお願いいたすものです。募金の趣旨はつぎの３点です。

①新総合計画に基づく建築基金
②学園記念行事、出版活動、「新名学園私学教育研究所」の研究活動の基金
③新名奨学金制度の充実と「特別奨学金」原資のための基金

学園は公教育私学という立場で無償教育を目指しており、今後も六者懇談会の一パートとして、助成金運動に取り組みながら学校づくりに力を合わせていきたいと思います。しかし現況は皆様のご支援が必要な状況で、ここに募金運動へのご理解、ご協力を引き続きお願い申し上げる次第です。それとともにこの間学債・寄付金をお納めいただいた方々のご芳名を掲げ、深く感謝申し上げ御礼に代えさせていただきます。

＜2015年３月より10月まで＞　順不同・敬称略

100万円以上　団体　旭丘高校ＰＴＡ　　個人　故野島通紀（旧職員）
竹内功一（旧父母懇役員）　水野　浩（理事長・学校長）

●野島先生のご家族から、個人の遺志により200万円の寄附をいただきました。
●卒業生保護者さん（神奈川父母懇談会旭丘支部）より100万円の寄附をいただきました。
●水野理事長・学校長より国際連携教育（中国等）資金として200万円の寄附をいただきました。

栗田千恵子	栗田賢一	加藤大貴	廣瀬将矢	柴崎隆志	山本伸子
芝崇浩	窪園弘美	三ケ田誠	片山玲子	劔持義美	渡辺隆
八木清	前田正代	高橋竜朗	斉藤秀一	梶清孝	猪俣　剛
林友美	山田康弘	谷本誠	岩本好史	高橋瑞明	野原達也
小出高史	吉川和男	飯田勝美	中沢正美	小宮紀子	長江功次
伊藤健一	藤枝勝人	増田幸史	浜野恵子	村田努	黒田了
山崎幸夫	久保寺一男	安部敬介	青木徹也	松田浩二	
田中央・紗来		鈴木昇	小野武彦	小濱洋司	山村久美子
寺田和之	渋谷基之	高橋克己	長田孝之	熊澤亮輔	寺田有希
三橋フサ	茂登山敬子	小清水重吉	岡本由紀		

昭和39年度卒業３年Ｅ組クラス会

寄付金　計6,624,650円　学債　計3,400,000円

寄付金　一口 5,000円から
学　債　一口10,000円から

複数口をお願いしております

両方とも郵便局の振込です。振込用紙は新名学園創立百十周年実行委員会事務局で取り扱っております。詳しくは下記にお問い合わせ下さい。

TEL 0465－23－3787　FAX 0465－23－5944（担当 茂登山）

2016年度（平成28年度）生徒募集

グローバル時代の私学
青年期の発達を支援するキャリア･進路･進学教育
地域単位制総合高校

旭丘高校を受験される皆さんへ

2016（平成28）年度生の募集定員と募集学科の主な特徴は以下のとおりです。

【募集定員】533名（推薦266名、一般267名）
【募集学科】普通科270名、総合学科263名

※内、普通科30名、総合学科30名がベーシッククラス

※普通科・総合学科とも単位制の全日制課程です。
※総合学科には「大学進学クラス」「進路探求クラス」「不登校生徒ベーシッククラス」があり、総合学科のカリキュラムは、共通履修科目と総合選択・自由選択科目により構成されています。さらに、グローバル教育・キャリア・進路・進学教育づくりに向け、その教育課程（カリキュラム）が進化しています。
※総合学科大学進学クラス（30名募集）には、大学に進学し、キャリア・進路を切り拓こうとする者を支援するための「特別奨学生制度」があります。特別奨学生制度には主として学業に関するものと主としてスポーツ・個性に関するものの二種類があります。
※普通科は「通常クラス（コース）」と「クリエイティブクラス（コース）＝（基礎学力の回復と応用・発展を図るクラス）」に分かれています。また、「不登校生徒ベーシッククラス」も併置されています。単位制普通科の通常クラス（コース）とクリエイティブクラス（コース）とも教育課程（カリキュラム）は、普通科目の共通履修科目と普通科目を軸とした多様な選択科目により構成され、さまざまな進路・キャリア教育・進学教育が進められています。
※不登校生徒のうち入学後に一般クラスで高校生活を送ることを希望する者については「不登校生特別推薦枠」での入試制度も活用することができます。

これから開かれる
体験入学セミナー
学校説明・相談会

【第６回】11月７日(土)
【第７回】11月21日(土)
【第８回】11月28日(土)
【第９回】12月５日(土)
【第10回】12月12日(土)
【第11回】１月９日(土)

いずれも午前９時開始。会場は旭丘高等学校。詳細は中学、または本校へお問い合わせください。
◆毎回、進学クラス（特別奨学生）とベーシッククラス、クリエイティブクラスの特設相談会があります。

〈文化祭〉11月14日（土）午前10時～午後２時
自由見学できます。入試相談コーナーも開きますので、お気軽にご相談ください。

中学生の皆さんの質問に答えます Q&A

Q１ 旭丘高校は二つの校地を持っていると聞きましたが、どのような特徴を持っているのでしょうか？

A１ 小田原城の史跡の中にある城内キャンパス（第１校地）と里山の豊かな自然に抱かれた久野・荻窪キャンパス（第２校地）の２つの校地があります。
第１校地ではインターンシップや地域調査等、第２校地では総合技術教育や食農教育（共同炊事・共同食事）、森林学習、労作、農作、工作（陶芸）等の２つの校地の立地環境を活用した学習活動を展開しています。
このように２つの校地の特性を生かすことで、様々な個性と成長のプロセスを持つ子ども･生徒たちの学びと発達、進路形成の求めにこたえる多彩・多様で豊かカリキュラムの創造を進めて来ました。
日頃は、２つの校地を結んで「地域が教室」を合言葉に、普通科は主として城内キャンパス、総合学科は主として久野・荻窪キャンパスで学習活動を展開しています。

Q２ 将来大学に進学したいのですが、旭丘高校では、どのようなコースとカリキュラムがあり、進学指導がなされていますか？

A２ 旭丘高校には、大学や短大への進学を目標に高校３年間を過ごす人たちのために総合学科に進学クラスがあります。履修科目としては、大学進学の基礎となる英語・国語が１・２年次に共通履修として増単位されているとともに、２・３年次の選択科目で受験対策やそれぞれの進路にあった科目の選択ができます。
さらに、授業やホームルーム、生徒会の活動や学校参加・社会参加の活動、クラブ活動等を通して進路への課題意識を深め、学びを創造し、将来自分の就きたい職業を見いだすことにより、上級学校で学ぶ専攻分野を決めていく新しいキャリア教育が特徴です。一般入試・推薦入試・AO入試など多様な入試制度を活用し、一人ひとりに合ったキャリア・ガイダンスが受けられます。進学クラス以外の普通科・総合学科の各クラスでもこの様なキャリア教育充実の方針のもと進学･進路選択講座（普通科）や総合・自由選択講座（総合学科）など多彩なカリキュラムが準備されています。

小田原特集

小田原干支にちなんだもの

来年の干支は「申」である。「猿」といえば、JR小田原駅の発車メロディーが昨年の11月１日HaRuNe小田原の開業に伴い、童謡「お猿のかごや」に変更されてから早１年。通勤ラッシュのプラットホームに鳴り響く軽快なメロディーのテンポも、だいぶ定着しているようだ。

エッサ　エッサ　エッサホイ　サッサ
お猿のかごやだホイサッサ
日暮れの山道　細い道
小田原提灯ぶらさげて　ソレ

「お猿のかごや」の歌詞には小田原提灯が登場するが、実際には小田原を舞台とした童謡という訳ではなく、作詞者の山下武夫氏が故郷(長野市松代)で出会った猿を懐かしく振り返り、実家の骨董商店に小田原提灯が置かれていた情景を思い描きながら、作詞をしたことがきっかけとされている。作曲は「里の秋」等も作曲している海沼実氏である。今回の新しい発車メロディーの編曲は地元出身のロックバンド「藍坊主」が手がけている。

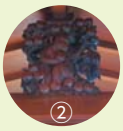
ところで、上りと下り線のホームでメロディーのアレンジの仕方に違いがあることに、お気づきだろうか？是非、音色の違いをお聞き比べください。近年、小田原ではこの童謡と結んで、毎年10月「エッサホイおどり」（コンクール）が盛大に催されている。

さて、「申」とは、賢い動物として讐えられるが、その持てる三つの英知と関わって、処世訓としても有名なのが「見ざる聞かざる言わざる」の三猿だ。江戸時代の彫刻職人、左甚五郎作とみられる日光東照宮（天台宗）にある三猿像の彫刻は有名だが、三猿をかたどった石塔であれば県内でも見ることができる。そこで「申」とのつながりで「庚申塔」と呼ばれる石塔の下に、彫刻が施されているものを探して、小田原の神社の周辺を散歩してみた。すると、居神（いかみ）神社（小田原市城山４－23－29）に見つけることが出来た。移設されたものであり、市指定史跡ではないが、鮮やかな緑苔をまとった三猿の姿が確かに垣間見られる。

さて、この三猿、実は日本元来のものではないようだ。諸説あるが古代エジプトやアンコールワットでも見られることから、シルクロードを伝いながら中国を経由して日本に伝来してきたものとされている。中国・孔子の「論語」にある中国語で言うところの「不見・不聞・不言」の言葉から由来し、それをもとに天台宗の教えとして日本に伝わってきたことが始まりとされる。三つのこのような行為を慎むことによって、人びとが幸せに生きられるというこの教えは、現在では英語でもThree wise monkeys（三賢猿）として表記され、若干の意味解釈の仕方に異なりが見られるが、アジア・アフリカ・ヨーロッパ・アメリカにも広がっている。

加えて、日光東照宮を意識して作られたという箱根宮ノ下・富士屋ホテル(国登録有形文化財)では、館内の随所に見事な彫刻が施されている。階段上に邪悪からホテルを守る猿（写真①）が見られ、ダイニングに通じる廊下の上部にも猿の彫刻が連なり（写真②）やメインダイニング内の欄間（写真③）にも十二支の申を描いた動物たちの姿が壁面一帯に垣間見られ、歴史の重厚さを感じながら、心温かいおもてなしで迎え入れられる。

①


②

③

箱根には「猿橋」や「猿滑坂」があり、バス停にも「猿の茶屋」駅があった。

小田原城天守閣の下の広場では、約10匹のサルが飼育されている。人気者のゾウのウメ子が亡くなり動物園としては寂しくなったが、来年は干支にあやかり、見物客の注目を浴びるであろう。

❖「猿」にちなんだ　小田原名産品はこちら……

■どうぶつかまぼこ（さる）

おだわらセレクション2015「市民が選んだ小田原みやげ」としても選定されている、魚肉（グチ）を使用した蒸しかまぼこ。パンダやブタ、カエルやアザラシ等デザインも豊富で季節の花柄もある。新春に活躍しそうな一品、お一つ432円、小田原の名産品でおせちに彩を添えて、お正月をお過ごしになるのはいかがでしょうか？

創業200年・株式会社籠清
小田原市本町３－５－13
☎0465－21－5205

■お猿のかごや

小田原市栄町１－19－18
☎0465－21－0536
店名が「お猿のかごや」で、様々な種類のおむすびやおかずが並んでいる。１個100円～。

（ご協力）創業明治11年
箱根・宮ノ下　富士屋ホテル
足柄下郡箱根町宮ノ下359
☎0460－82－2211

倉田記

編集後記

今号の特集はPTSとナガサキ修学旅行－グローバル・キャリア教育の展開－でした。修学旅行では平和学習の一環として被爆地の碑めぐりが組み込まれているが、今回の小田原特集では、「三猿」をもとに、その伝来のルーツを探りながら歴史を遡ってみた。そこで碑めぐりの醍醐味を知ると関心が増し、さらに日本や中国、そして世界各地の三猿を見たくなった。まだまだ小田原には掘り出し物がたくさんあるような気がする。

さて、「見ざる・聞かざる・言わざる」とは大切なことではあるが、解釈に錯誤が生じないように申し上げると、害になるもの、為にならないもの、悪いものを見ない事が望ましいという意味であり、決して無視や無関心を装うことを勧めているものではない。

他校の私立高校が初職であった私は、４月１日の私立学校新任者研修で、教育とは生徒の話をただ単に「耳」くのではなく、「聴」くことが大切です、「聴」くという文字の細かなつくりに表れているように、「耳」を傾け、「目」を見て、「心」を込めて話を聴くことが大切なのです、という講義を受けた。では、「聴」の上に付いている「十」には何の意味があるのだろうか。この時の講義を担当された神父様のお話では「十」字架を掲げておっしゃっていたのが私立学校らしく印象に残っている。このように、教育の世界では、しっかり「見て・聞いて・言う」ことの大切さも勿論あるのではないかと思う。多様（グローバル）な物事の見方も必要かもしれない。

今号の特集「ナガサキ修学旅行」もこうした視点からご一読願えれば幸いである。　（旭丘学報クローバー編集委員　倉田美由）

旭丘学報
クローバー
発行人：学校法人新名学園　水野　浩
編　集：法人事務局
発行所：小田原市城内１―13
ＴＥＬ：0465（23）3787

問い合わせ　旭丘高等学校
TEL　0465（24）2227
FAX　0465（22）0216
日曜・祭日を除いて午前９時から午後４時まで。但し、土曜日は正午まで。（第１・３・５土曜日は休日）